

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第35集

市内遺跡発掘調査報告書1993

1995. 3

佐久市教育委員会

例 言

1 本書は、1993年度（平成5年度）において個人住宅、民間開発及び公共開発に係る試掘調査並びに立ち会い調査を実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2 市内遺跡発掘調査の費用は、全額を国庫補助金、県費補助金、市費等の公費により賅った。

3 事務局の構成

1994年度（平成6年度）

◎発掘調査受託者 教育長 大井季夫

事務局

教育次長 奥原秀雄

埋蔵文化財課 課長 戸塚 満

管理係 係長 谷津恭子、田村和広、上原 希

埋蔵文化財係 係長 草間芳行、林 幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林真寿、羽毛田卓也

富沢一明、上原 学

調査主任 佐々木宗昭、森泉かよ子

調査員 小林よしみ、桜井牧子、真鳴保子、柳沢豊志子

4 各遺跡の執筆は発掘調査担当者が、編集は林 幸彦が行った。また、掲載図面は、調査員の小林よしみ、桜井牧子 真鳴保子 柳沢豊志子が作成した。

5 本書掲載の関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管してある。

目 次

1 西赤座遺跡 6	(1)	26 上小平遺跡 1	(53)
2 棚畑遺跡 1	(2)	27 菅田遺跡 2	(54)
3 栗毛坂遺跡群 1 1	(3)	28 橋ヶ窪遺跡 1・十二の前遺跡 1	(56)
4 栗毛坂遺跡群 1 2	(5)	29 白山遺跡群 2	(58)
5 岩村田遺跡群 1 0	(7)	30 一本柳遺跡群 4・中長塚遺跡 1	(63)
6 栗毛坂遺跡群 4	(8)	31 辻遺跡 2	(64)
7 上久保田向遺跡 2	(12)	32 根々井居屋敷遺跡 1	(66)
8 上久保田向遺跡 3	(12)	33 一本柳遺跡群 5	(69)
9 芝宮遺跡群 5	(14)	34 平賀城跡 2	(76)
10 大星尻遺跡 1	(16)	35 中金井遺跡群 2	(77)
11 周防畑遺跡群 4	(18)	36 長明塚遺跡 2	(78)
12 芝宮遺跡群 6	(20)	37 中原遺跡群 4	(79)
13 根々井氏館跡 1	(22)	38 狐塚遺跡 1	(80)
14 蛇塚 A 遺跡群 I	(32)	39 平馬塚遺跡群 2	(81)
15 上の城遺跡群 4	(36)	40 西赤座遺跡 7	(83)
16 中金井遺跡群 1	(40)	41 大星尻遺跡 2	(84)
17 唄坂遺跡 1	(43)	42 枇杷坂遺跡群 1	(85)
18 上長坂遺跡群 1	(45)	43 枇杷坂遺跡群 2	(85)
19 上の原遺跡群 1	(45)	44 落合居屋敷遺跡 1	(87)
20 東内池遺跡 3	(47)	45 番屋前遺跡群 5	(88)
21 寺畑遺跡群 3	(48)	46 野馬窪遺跡群 1	(89)
22 曾根新城遺跡 V	(49)	47 荒家遺跡 1	(90)
23 長土呂遺跡群 2	(50)	48 長坂口遺跡 3	(91)
24 境内遺跡 1	(51)	49 寺畑遺跡群 5	(92)
25 上の城遺跡群 3	(52)		
付表 1993年度市内遺跡発掘調査一覧表	(94)		
付図 1993年度市内遺跡発掘調査位置図	(95)		

試掘調査

1 西赤座遺跡 6

所在地 佐久市大字岩村田
 3621-4, 3632-1, 3633-1
 開発主体者 株式会社デライツフーズ
 開発事業名 店舗新築
 調査期間 平成5年4月1・2日
 面積 1548.0㎡
 調査担当者 林 幸彦
 立地と経過

本遺跡は佐久市北部の栗毛坂遺跡群南西部にあり、標高735m内外を測る。

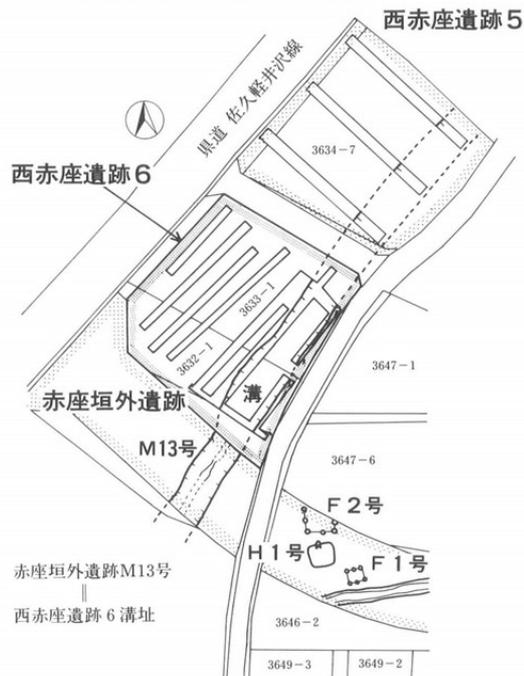
1990年に古墳時代から平安時代の集落が検出された赤座垣外遺跡が南に接している。

調査の結果

調査区の東側で南北に延びる溝が検出された。この溝は、南北に接している西赤座遺跡2、西赤座遺跡5、赤座外垣遺跡でも検出されている。赤座外垣遺跡でM13号状遺構とされており、幅7m深さ1.7mを測る。



西赤座遺跡 6 位置図 (1 : 10,000)



西赤座遺跡 6 調査全体図 (1 : 1,500)



西赤座遺跡 6 調査地点近景 (北東方から)

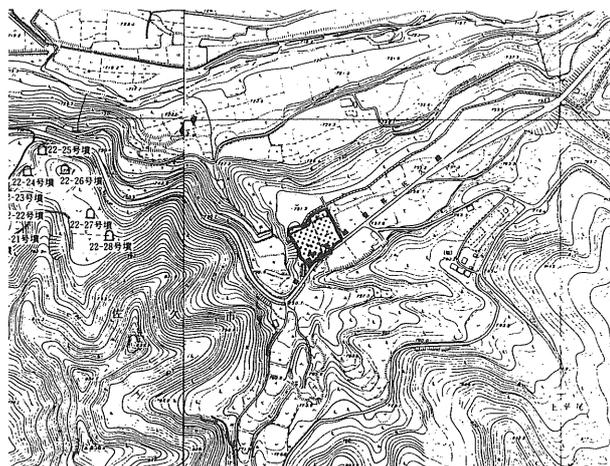


西赤座遺跡 6 溝址 (南方から)

試掘調査

2 棚畑遺跡 1

所在地 佐久市大字上平尾1492,
開発主体者 平尾山開発(株)
開発事業名 スキー場排水施設工事
調査期間 1993年4月3・5日
面積 約2200㎡
調査担当者 小林 眞寿



棚畑遺跡 1 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

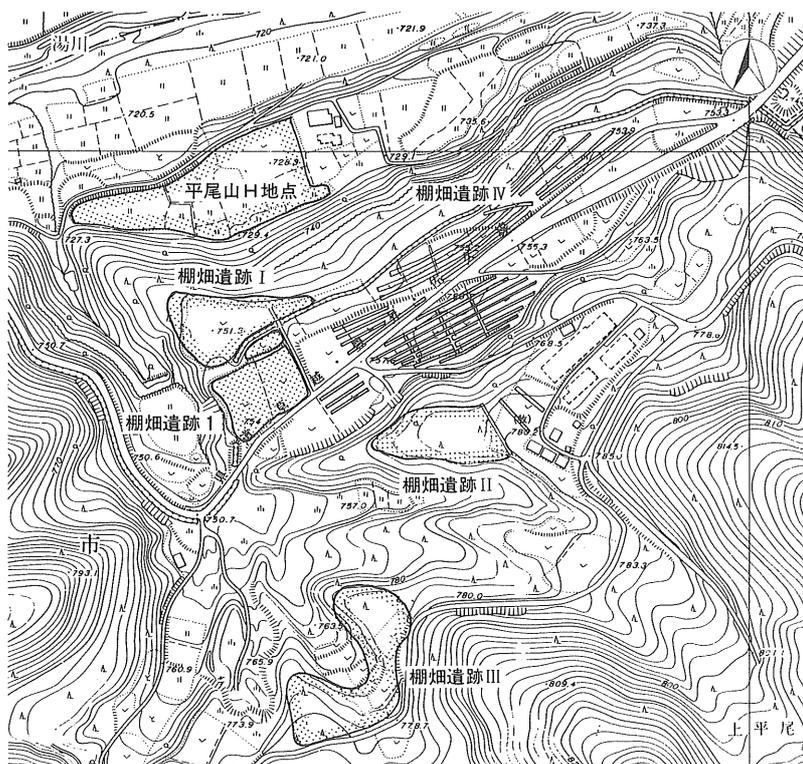
棚畑遺跡は湯川の左岸にあって、標高751~780mを測る。平尾山開発株式会社のスキー場造成工事に先立つ1992年の試掘調査で新たに発見された遺跡である。1993年度の棚畑遺跡 I ~ V の調査では、縄文時代中期の竪穴住居址17軒および土坑約100基、古墳時代初頭の竪穴住居址10軒、平安時代の竪穴住居址2

軒等が検出された。

縄文式土器、土師器、須恵器、石器、鉄器等の遺物が出土している。当地では少ないS字状口縁を持つ甕形土器も出土した。

調査の結果

今回のスキー場排水施設範囲内からは、遺構・遺物とも検出されなかった。



棚畑遺跡 1 調査全体図 (1 : 5,000)

試掘調査

3 栗毛坂遺跡11

所在地 佐久市大字岩村田
3749-1, 3749-5, 3751-1
開発主体者 ミヤモリ株式会社
開発事業名 倉庫・事務所建設
調査期間 平成5年4月7日
面積 3,399m²
調査担当者 林 幸彦
立地と経過



栗毛坂遺跡群11位置図 (1:10,000)

本調査地点は、栗毛坂遺跡群の南東部にあり、標高733mを測る。南に隣接する上信越自動車道の用地内からは、弥生時代後期から中世の住居址100軒が検出されている。

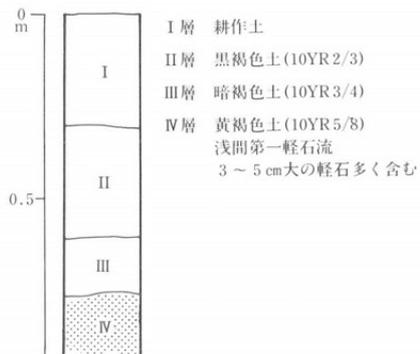
ミヤモリ株式会社が倉庫・事務所を建設することになり、試掘調査を実施した。

調査の結果

南東部に集中して平安時代の住居址7軒、溝3、土坑2等が検出された。遺物はすべて確認面の出土である。現在保護協議中である。



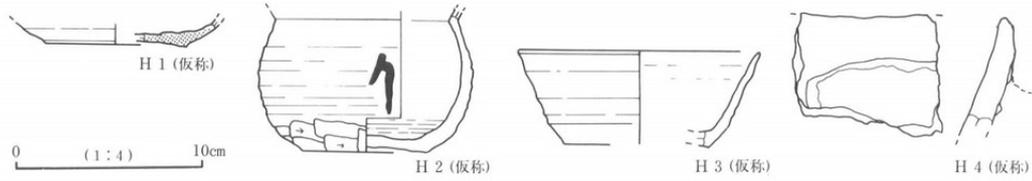
栗毛坂遺跡群11遺構検出状況 (北方から)



栗毛坂遺跡群11土層柱状図



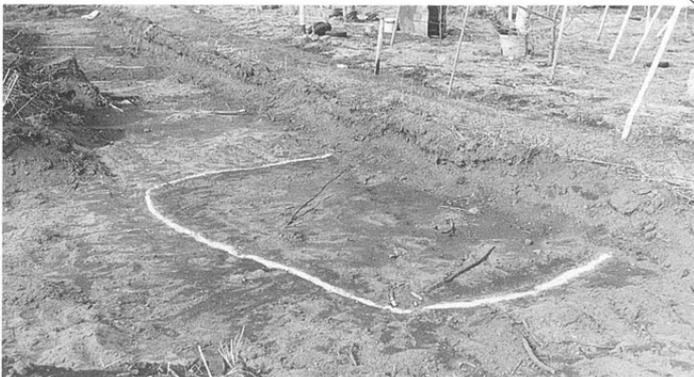
栗毛坂遺跡群11遺構検出状況 (西方から)



栗毛坂遺跡群11出土遺物実測図



栗毛坂遺跡群11調査全体図 (1 : 1,000)



栗毛坂遺跡群11遺構検出状況 (南方から)

試掘調査

4 栗毛坂遺跡群12

所在地 佐久市大字岩村田38-1,
39-2,40-1,41-1,42-2

開発主体者 佐久市区画整理課

開発事業名 換地に関わる盛土

調査期間 平成5年4月8～10日,

面積 5175㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

本調査地点は栗毛坂遺跡群の北端にあり、標高744m内外を測る。西に隣接する栗毛坂遺跡群西曾根遺跡は、1989年に雇用促進住宅建設に伴い発掘調査され、8世紀前半の竪穴住居址2軒掘立柱建物址17棟等が検出されている。今回、佐久市区画整理課が盛り土を実施するため事前に試掘調査を行った。

調査の結果

南北に幅2mのトレンチを設定し、重機により掘り下げたが遺構・遺物の検出はなかった。



栗毛坂遺跡12位置図 (1:10,000)



栗毛坂遺跡群12トレンチ近景 (北方から)



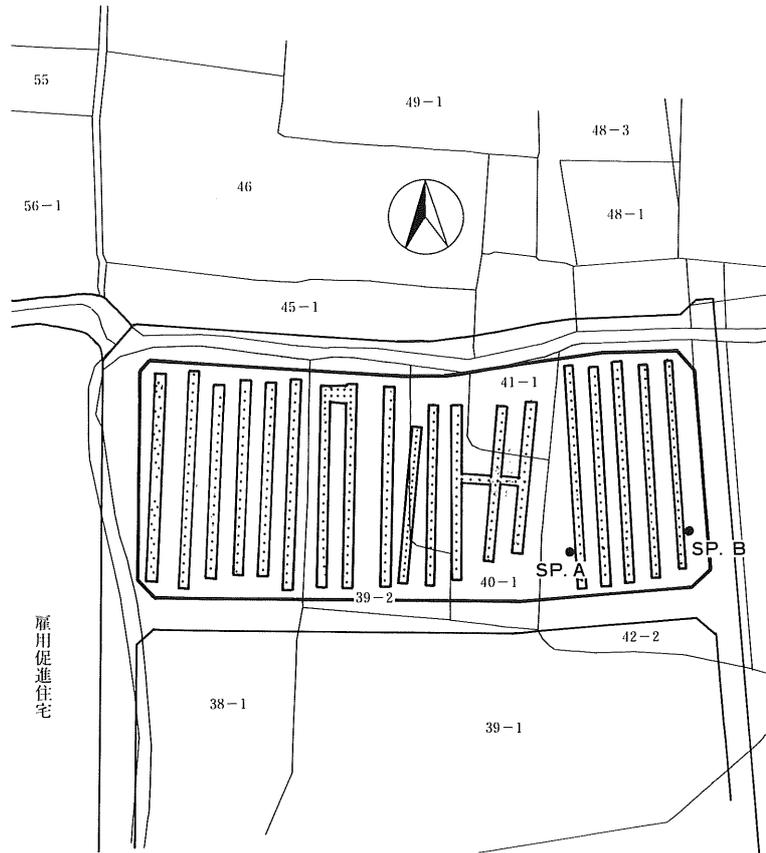
栗毛坂遺跡群12トレンチ近景 (北東から)



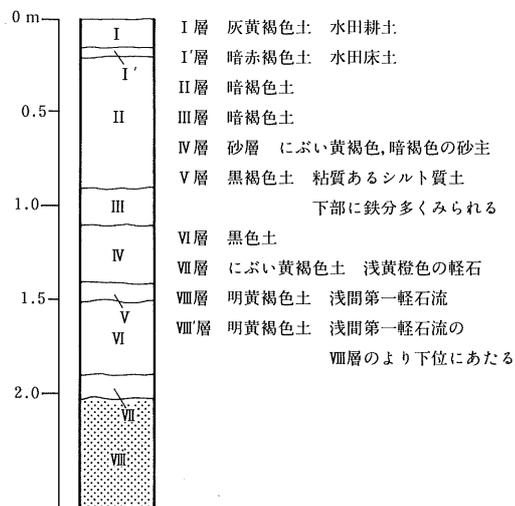
栗毛坂遺跡群12トレンチ近景 (西方から)



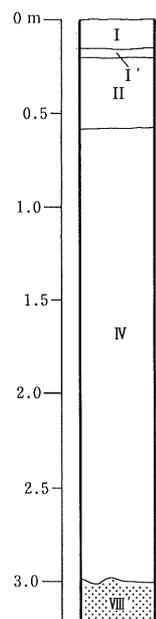
栗毛坂遺跡群12トレンチ近景 (北東から)



栗毛坂遺跡群12調査全体図 (1 : 1,500)



栗毛坂遺跡群12A地点土層柱状図



B地点土層柱状図

試掘調査

5 岩村田遺跡群10

所在地 佐久市大字岩村田120-2,
121-2,133-2
開発主体者 佐久市区画整理課
開発事業名 盛り土
調査期間 平成5年4月8日～10日
面積 2,500㎡
調査担当者 林 幸彦



岩村田遺跡群10位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

本遺跡群は、岩村田市街地の北半から仙祿湖東方に展開し、標高702～737mを測る。

市街地から仙祿湖に至る県道佐久軽井沢線沿線は、上信越自動車道のインターチェンジ設置により店舗等の建築が相次いでいる。

今回、佐久市岩村田北部区画整理事業に係る盛り土及び整地が実施されることになったため試掘調査を実施することとなった。

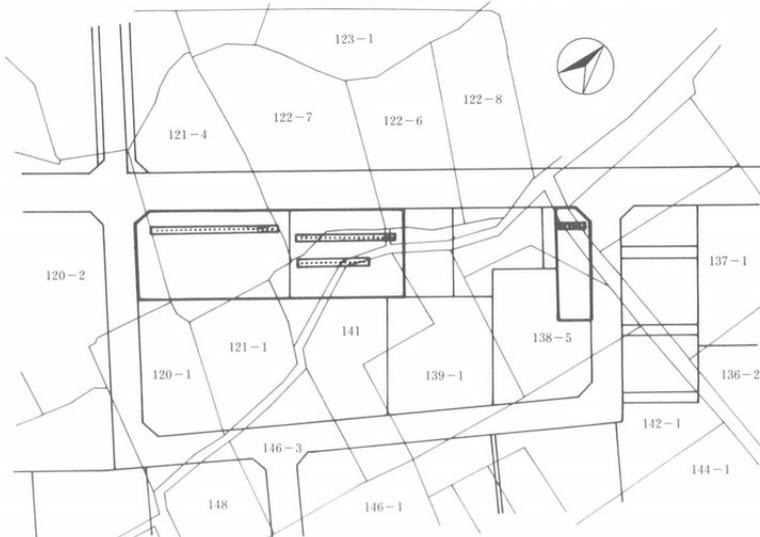


岩村田遺跡群10トレンチ近景 (北方から)

調査の結果

南北に幅2mのトレンチを設定し重機により遺構の確認をした。

遺物・遺構の検出はなかった。



岩村田遺跡群10調査全体図 (1 : 2,000)

試掘調査

6 栗毛坂遺跡群 4 (A・B・C・地区)

所在地 佐久市大字岩村田67-1,
64-1,37-1

開発主体者 信越放送(株)

開発事業名 SBC住宅展示場建築

調査期間 平成5年4月5～7,14～16,
24～28,30日

面積 7,803㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

本調査地点は栗毛坂遺跡群の北端にあり、標高744m内外を測る。西に隣接する栗毛坂遺跡群西曾根遺跡からは、8世紀前半の竪穴住居址2軒掘立柱建物址17棟等が検出されている。信越放送(株)が住宅展示場を建設することになり試掘を行った。

調査の結果

簡易舗装の駐車場予定地(A地区)から平安時代の竪穴住居址1軒、掘立柱建物址4棟等が検出された。他地点からは検出されなかった。



栗毛坂遺跡群4位置図(1:10,000)



栗毛坂遺跡群4 B地区トレンチ近景(南方から)



栗毛坂遺跡群4 B地区トレンチ近景(南方から)

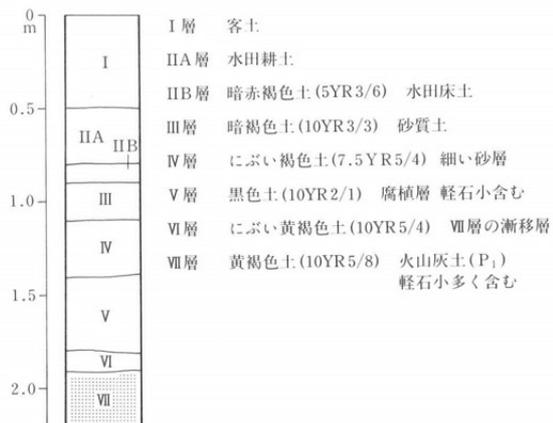


栗毛坂遺跡群4 C地区トレンチ近景(西方から)



栗毛坂遺跡群4 C地区トレンチ近景(西方から)

6 栗毛坂遺跡群 4



栗毛坂遺跡群 4 C地区土層柱状図



栗毛坂遺跡群 4 C地区土層 (西方から)



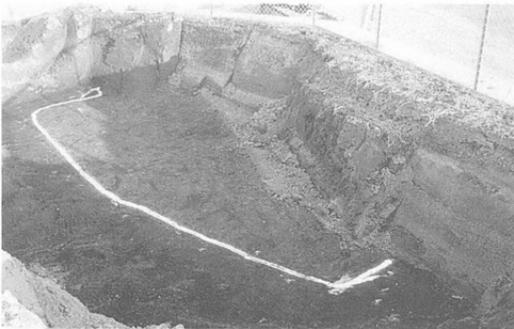
栗毛坂遺跡群 4 A・B・C地区調査全体図 (1:2,000)



栗毛坂遺跡群 4 A地区遺構検出状況 (西方から)



栗毛坂遺跡群 4 A地区遺構検出状況 (南方から)



栗毛坂遺跡群 4 A地区遺構検出状況 (北西方から)

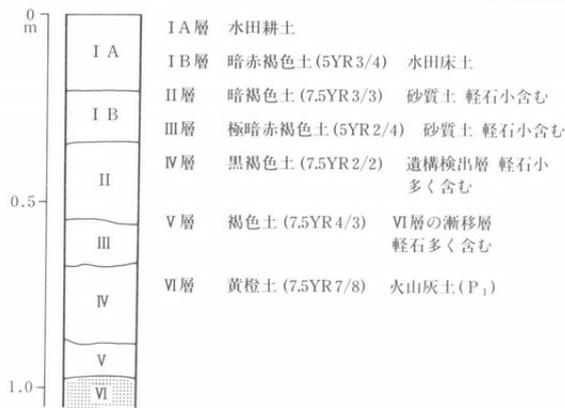
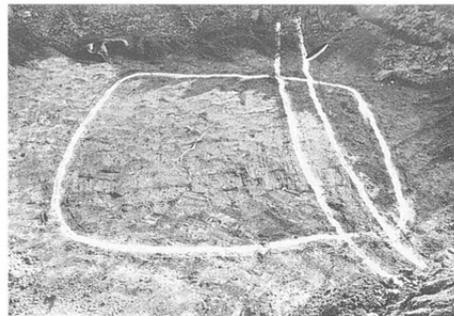


栗毛坂遺跡群 4 A地区遺構検出状況 (南東から)



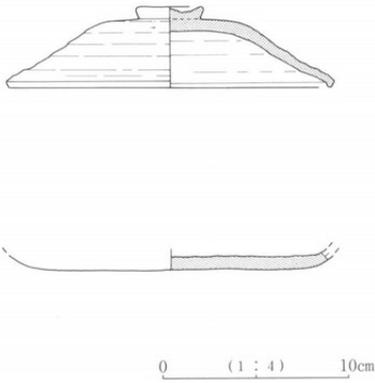
栗毛坂遺跡群 4 A地区土層 (西方から)

栗毛坂遺跡群 4
A地区遺構検出
状況(北西から)



栗毛坂遺跡群 4 A地区土層柱状図

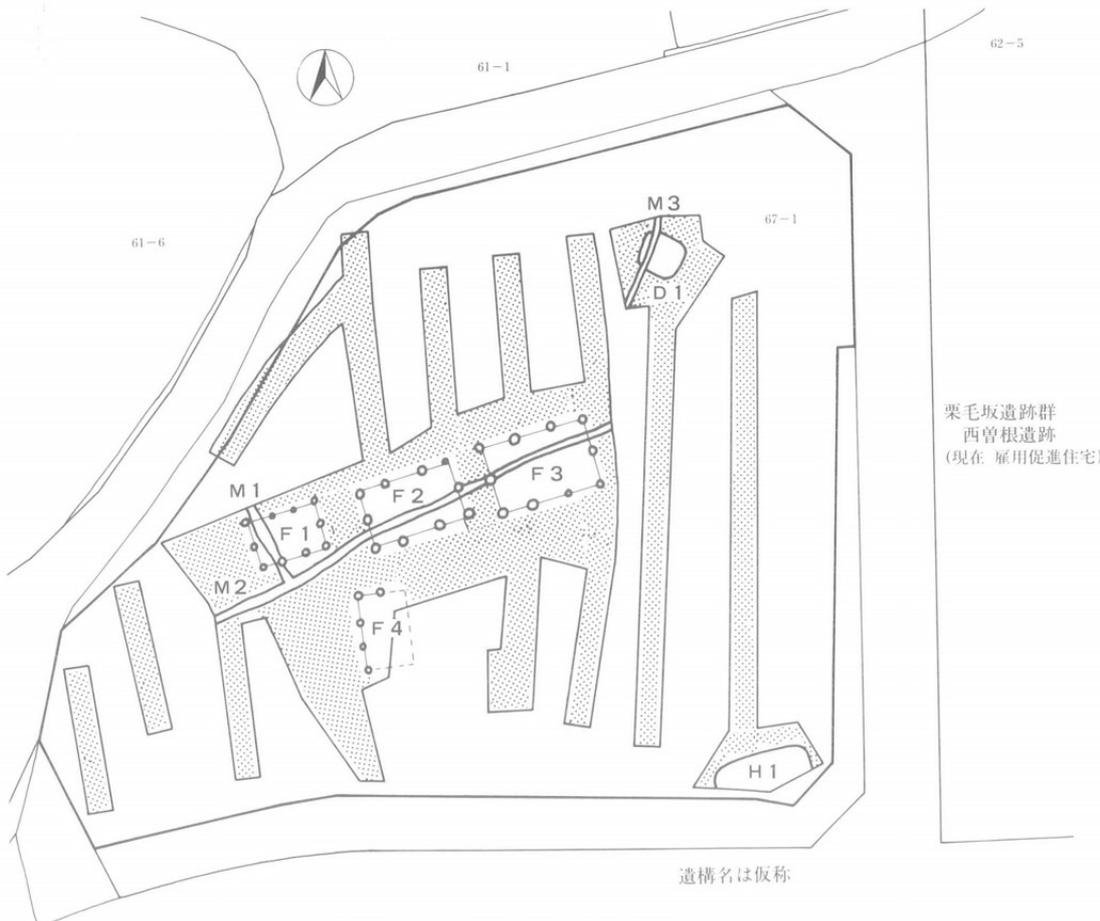
6 栗毛坂遺跡群 4



栗毛坂遺跡群 4 C地区出土器実測図



栗毛坂遺跡群 4 A地区近景 (西方から)



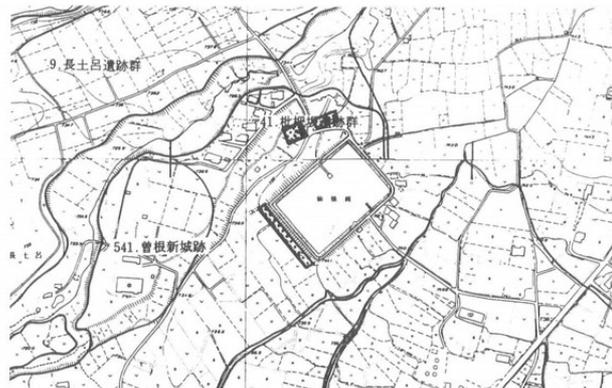
栗毛坂遺跡群 4 A地区検出遺構全体図 (1:500)

試掘調査

枇杷坂遺跡群

7 上久保田向遺跡 2

所在地 佐久市大字岩村田210-1
209-3
開発主体者 佐久市区画整理課
開発事業名 道路工事
調査期間 平成5年4月8・9日
面積 720.00㎡
調査担当者 林 幸彦



枇杷坂遺跡群上久保田向遺跡 2・3 位置図 (1:10,000)

試掘調査

枇杷坂遺跡群

8 上久保田向遺跡 3

所在地 佐久市大字岩村田76-13, 84-8他
開発主体者 佐久市区画整理課
開発事業名 区画内整地・盛り土
調査期間 平成5年3月9日
面積 800㎡
調査担当者 森泉 かよ子

立地と経過

本遺跡群は小海線岩村田駅から仙祿湖にかけて細長く展開する。標高は705～740mを測る田切りの台地上にある。上久保田向遺跡 I～Vの調査では、平安時代の集落などが検出されている。

今回、佐久市区画整理課が佐久市岩村田北部区画整理事業で道路工事および区画内整地・盛り土をすることになり、事前に試掘調査を実施した。

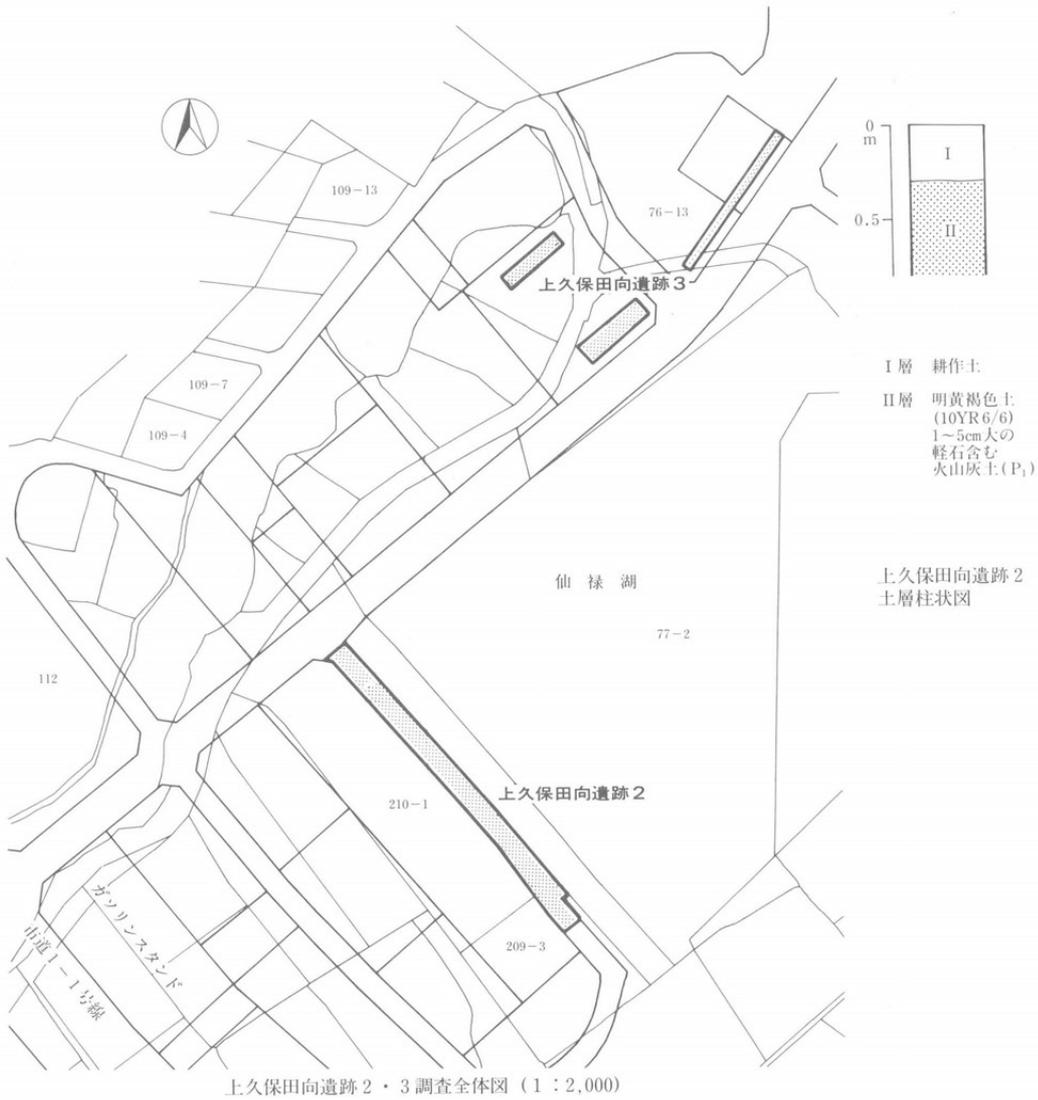
調査の結果

対象地内の表土を重機により除去し精査したが、2地点とも遺構・遺物の検出はされなかった。



上久保田向遺跡 2 トレンチ近景 (東方から)

7 上久保田向遺跡2, 8 上久保田向遺跡3



上久保田向遺跡3トレンチ近景 (北方から)



上久保田向遺跡3トレンチ近景 (南方から)

試掘調査

9 芝宮遺跡群 5

所在地 佐久市大字長土呂775-11
開発主体者 佐藤 邦夫
開発事業名 共同住宅建築
調査期間 平成5年4月15日
面積 967.00㎡
調査担当者 林 幸彦

立地と経過

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡として知られている。浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切り台地上に立地している。下芝宮遺跡 I～IV、上高山遺跡 I・II、上芝宮遺跡 I・II 等が発掘調査されている。

今回、佐藤郁夫氏が共同住宅を建築することになり、試掘調査を実施した。

調査の結果

南北に5本の幅役2mのトレンチ内を重機で表土除去し、精査した。西端において上芝宮遺跡 I で調査された古墳時代後期竪穴住居址東側部分が検出された。さらに、時期は不明であるが一辺3mの方形を呈する遺構が検出された。

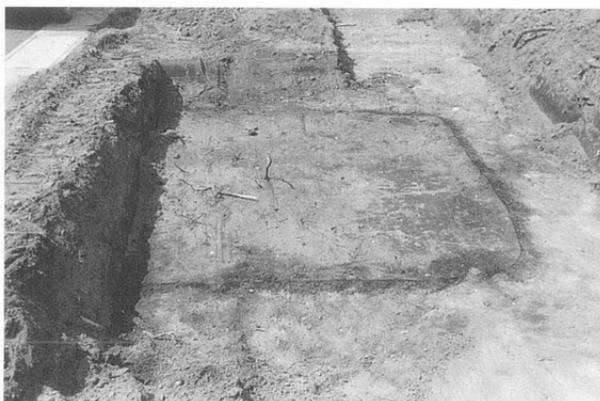
協議の結果、建物は開発用地の東側に極力寄せることになり、遺構が検出された地点は自転車置き場とすることになったため、遺構には工事が及ばず、建造物ものらないので埋め戻しをした。



芝宮遺跡群 5 位置図 (1 : 10,000)



芝宮遺跡群 5 遺構検出状況 (南方から)
(1992年度調査上芝宮遺跡 I H 1 号住居址東側一部)

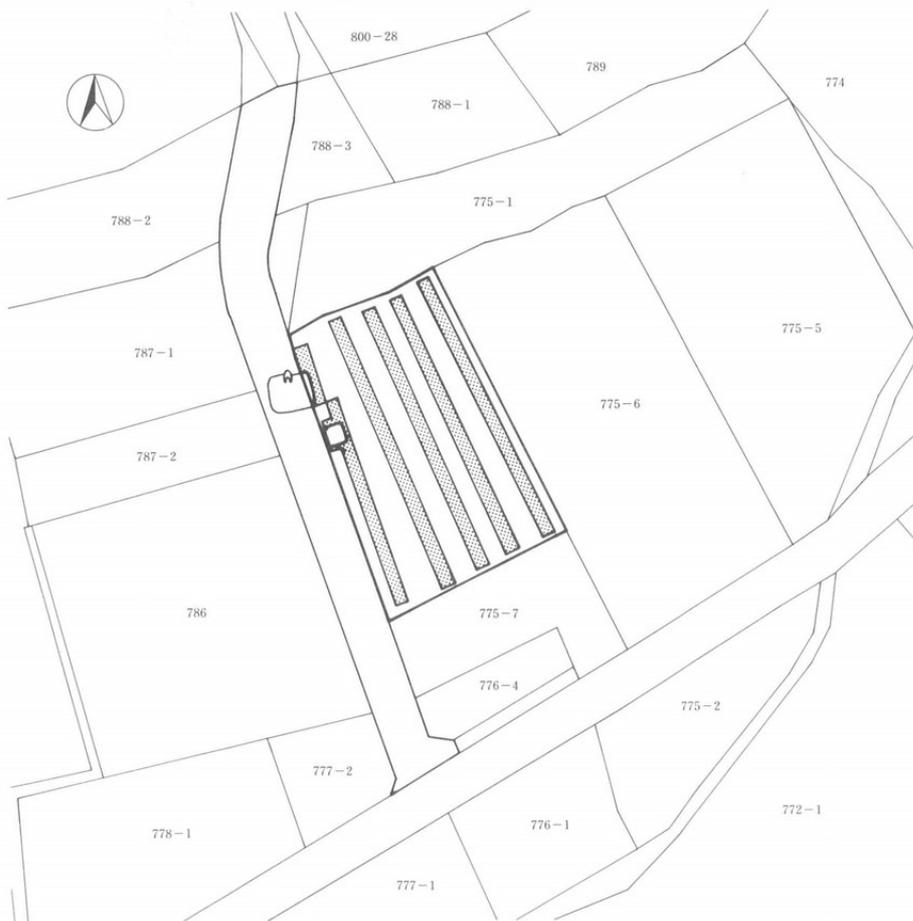


芝宮遺跡群 5 遺構検出状況 (南方から)

9 芝宮遺跡群 5



芝宮遺跡群 5 調査地点 (南方から)



芝宮遺跡群 5 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

10 大星尻遺跡 1

所在地 佐久市大字下平尾2776-2
他

開発主体者 佐久市農林課

開発事業名 道路工事

調査期間 平成5年4月16・17・19～22日

面積 15,414.00㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

本遺跡は、上信越自動車道に関わる新発見の遺跡である。平尾富士南麓の低い尾根にはさまれる緩やかな谷中斜面にある。南面する崖錐性のテラス状傾斜地で、標高760m～820mを測る。長野県埋蔵文化財センターにより上信越自動車道用地内で奈良時代の古墳1基、近世墳墓2基等が発掘調査されている。

今回、佐久市農林課が道路工事を計画したので遺跡範囲と遺構の有無確認のため試掘調査を実施した。

調査の結果

緩斜面の道路用地全面を重機により表土を除去したが遺構は検出されなかった。遺物は縄文時代中期の土器と打製石斧が出土した。



大星尻遺跡1位置図 (1:10,000)



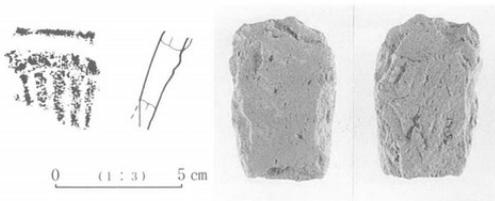
大星尻遺跡1調査地点近景 (南方から)



大星尻遺跡1調査地点近景 (北東方から)

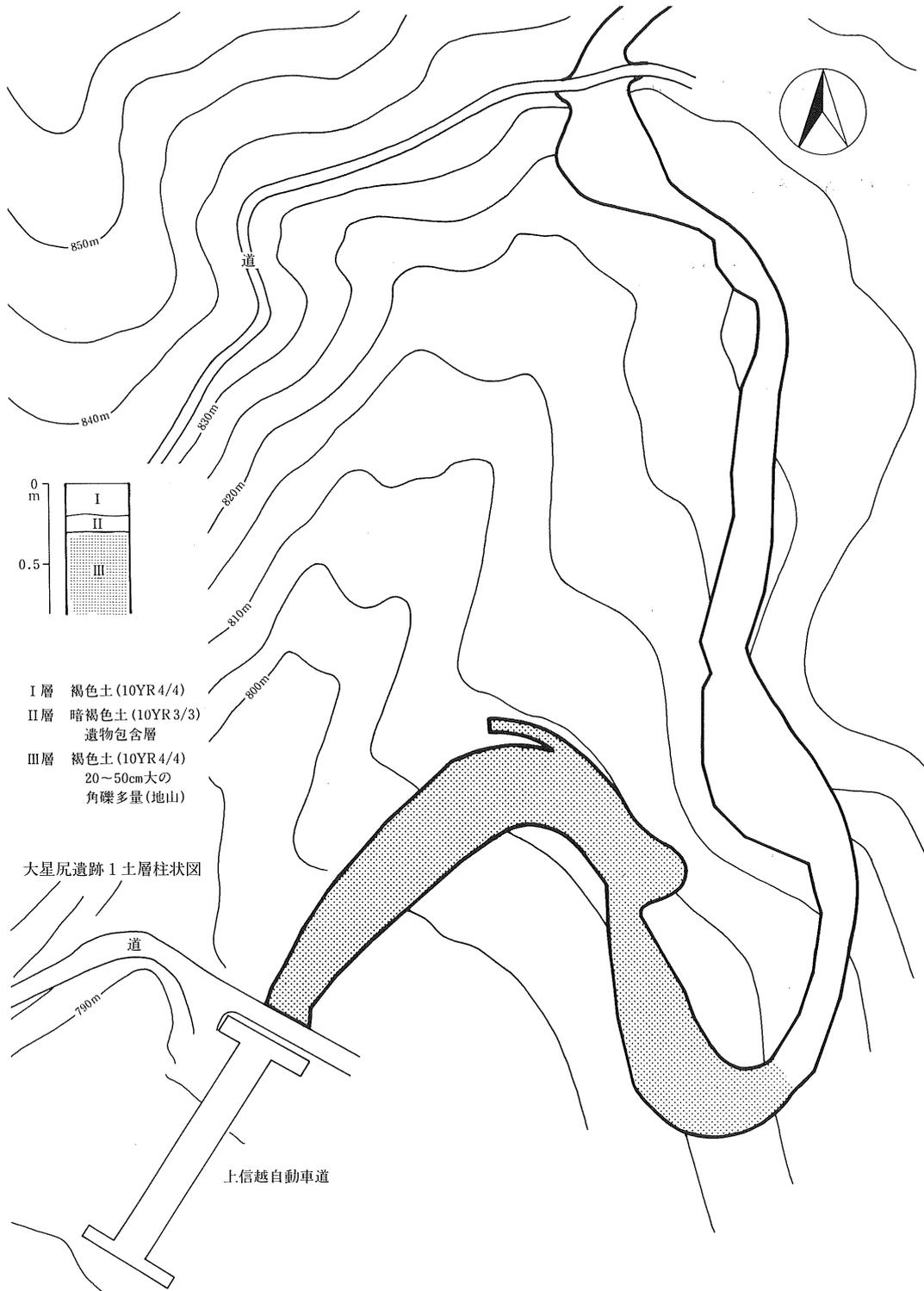


大星尻遺跡1調査地点近景 (南方から)



大星尻遺跡1出土遺物 (1:3)

10 大星尻遺跡 1

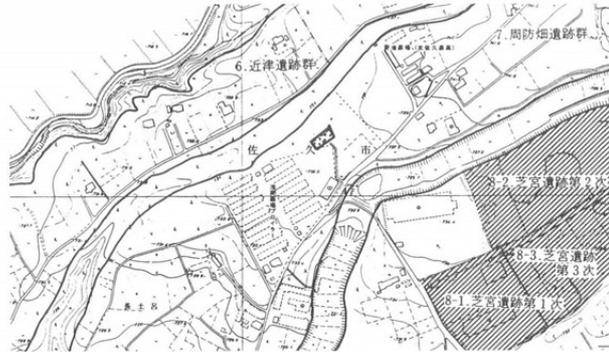


大星尻遺跡 1 調査全体図 (1 : 2,500)

試掘調査

11 周防畑遺跡 4

所在地 佐久市大字長土呂862-5
862-12
開発主体者 (有)新栄開発
開発事業名 工場建築
調査期間 平成5年4月23日
面積 2,999㎡
調査担当者 林 幸彦



周防畑遺跡群 4 位置図 (1 : 10,000)

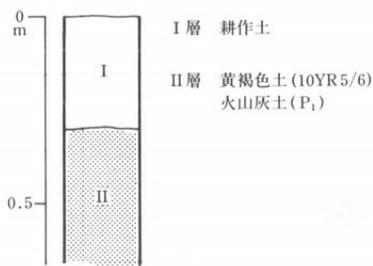
立地と経過

調査地点は周防畑遺跡群の東部にあたり、標高736mを測る。本遺跡群の小海線付近から千曲錦酒造工場にかけてと上信越自動車道通過地点一帯は、弥生時代～平安時代の集落が密集しているが、浅間農場プロイラーから北佐久農業高校菱池農場にかけての遺跡群中央は、遺構密度の希薄なところである。

今回、(有)新栄開発が工場建築を計画したため試掘調査を実施した。

調査の結果

南北に11本のトレンチを設定し精査したが遺構・遺物の検出はなかった。



周防畑遺跡群 4 土層柱状図



周防畑遺跡群 4 調査地点近景 (東方から)



周防畑遺跡群 4 トレンチ近景 (南方から)

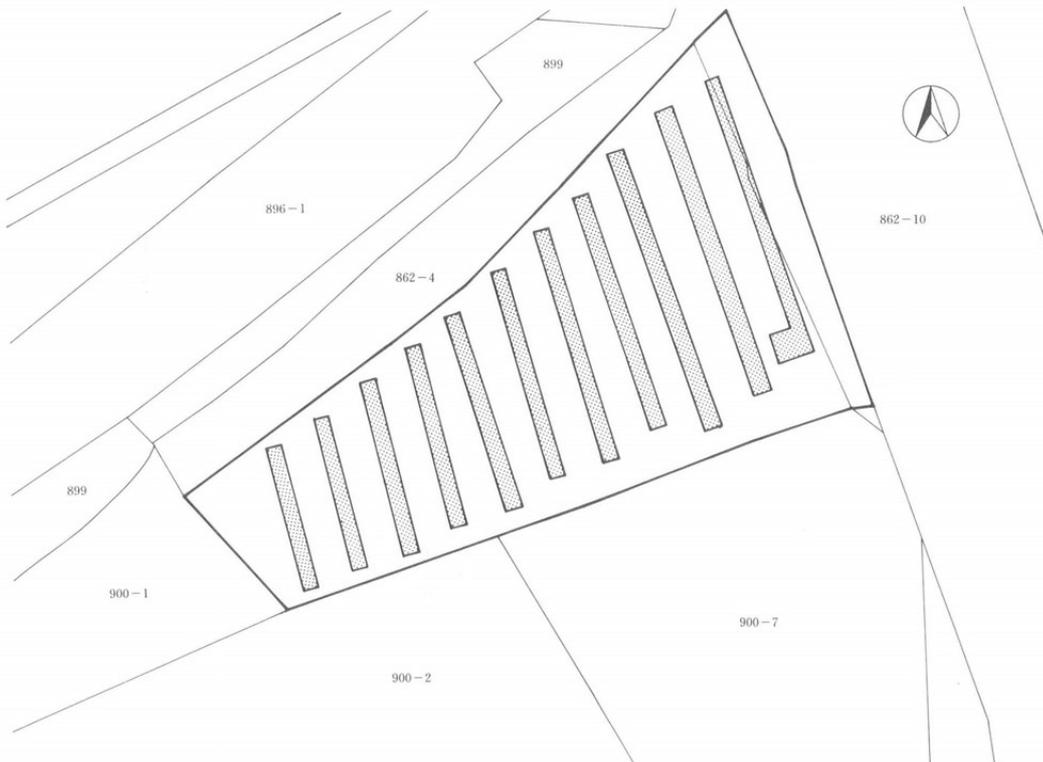


周防畑遺跡群 4 トレンチ近景 (南東方から)

11 周防畑遺跡群 4



周防畑遺跡群 4 トレンチ近景 (南東方から)



周防畑遺跡群 4 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

12 芝宮遺跡群 6

所在地 佐久市大字長土呂
開発主体者 (株)UR測量95-7・8
開発事業名 事務所建築
調査期間 平成5年4月26日
面積 981.00㎡
調査担当者 林 幸彦



芝宮遺跡群6位置図(1:10,000)

立地と経過

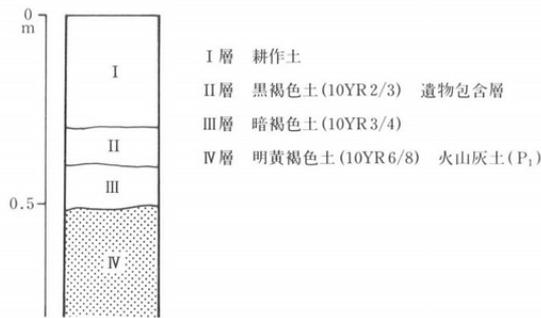
芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡として知られている。浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された田切り台地上に立地している。下芝宮遺跡Ⅰ～Ⅳ、上高山遺跡Ⅰ・Ⅱ、上芝宮遺跡Ⅰ・Ⅱ等が発掘調査されている。さらに、500m東方では、上信越自動車道に関わり古墳時代から平安時代の大型集落址が長野県埋蔵文化財センターにより調査されている。

調査の結果

東西3本のトレンチを設定し、重機で表土を除去し、遺構の存在が確認された地点を拡張した。

対象地の中央から西側にかけて南北に走る溝状遺構と平安時代の竪穴住居址2棟が検出された。溝状遺構と竪穴住居址との新旧関係は把握できなかった。

協議の結果、事務所棟をより東側に移す設計変更をしていただくことになったため、遺構は破壊されず、埋め戻しをした。



芝宮遺跡群6土層柱状図

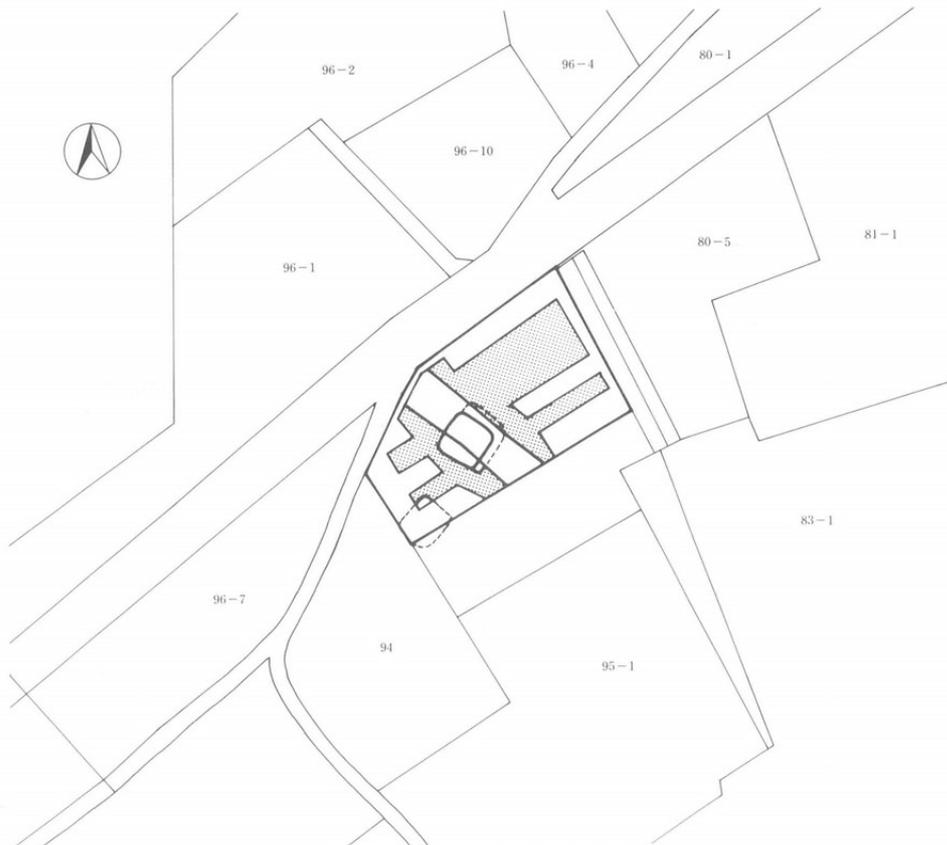


芝宮遺跡群6調査地点近景(北東方から)

12 芝宮遺跡群 6



芝宮遺跡群 6 検出遺構近景 (北方から)



芝宮遺跡群 6 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

13 根々井氏館跡 1

所在地 佐久市大字根々井625-1

625-2

開発主体者 クロスロード開発㈱

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成5年5月6～8・14日

面積 1,985㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

根々井館跡は、昭和40年7月29日に長野県史跡に指定された。また、正法寺の周辺には、弥生時代～平安時代の遺物が多くみられ、根々井居屋敷遺跡として周知されている。

根々井館跡は、西流する湯川の右岸にあって標高663.6mを測る。この付近の湯川は、南へ流路を移し大きく蛇行している。

今回、クロスロード開発㈱が宅地造成を計画し、史跡の現状変更許可申請がなされた。このため試掘調査を実施して館跡に関する遺構の存在の有無を確認することになった。

調査の結果

試掘調査は、625-1番地を第一地点、625-2番地を第二地点として水田耕土は重使用して除去した。



根々井氏館跡1位置図 (1:10,000)



根々井氏館跡遠景 (南東方から)

第一地点のA・Eトレンチから南北に直線上に延びる礫を検出した。この礫は東側の谷地状の低地に下がっていくことが判明した。礫群の一部を掘り下げたところ、この礫群は湯川によって堆積浸食された自然地形であることが確認された。この礫群の直上の第X層からは、多量の弥生時代後期の壺・甕・高坏・坏が出土した。礫群の東方にみられた谷地状の低地の第V～VII層は古い水田址の可能性はある。第VII層からは古墳時代の須恵器片、第IX層からは弥生時代後期の土器片が出土した。

第2地点では、Iトレンチの中央から南端にかけて第一地点よりは浅い低地がみられた。この低地には砂層とやや粘りのある黒色土が堆積しており、下部には第一地点にみられた第XI層の砂と礫群が存在する。第II層からは、平安時代の土師器坏、第III・IVからは完形に近い弥生時代後期の壺・甕が10点集中して出土した。今回の調査では、根々井館跡に関する遺構の検出はなかった。



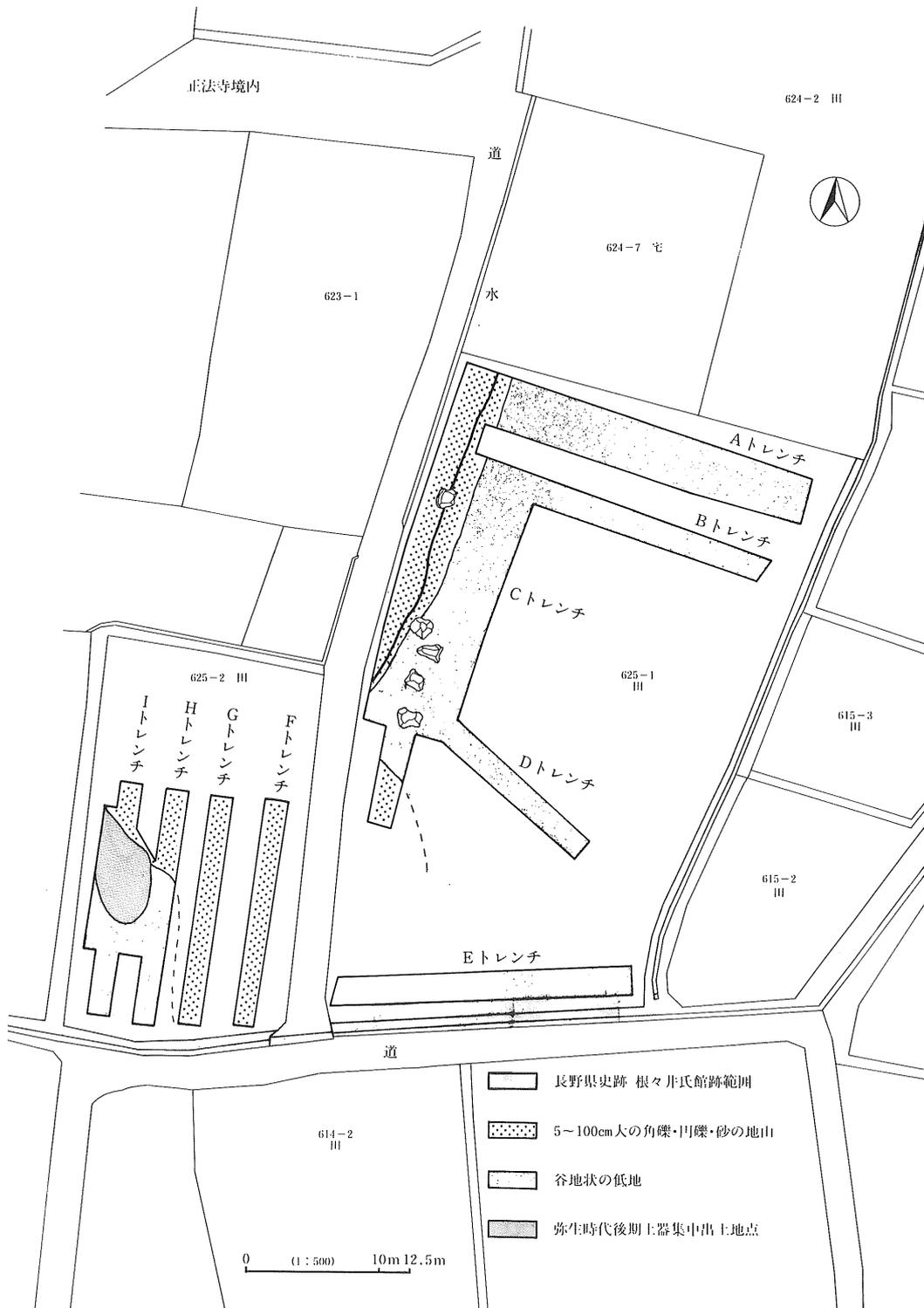
根々井氏館跡1 調査地点近景（南西から。正面は浅間山。左手が正法寺。重機付近が調査地点）



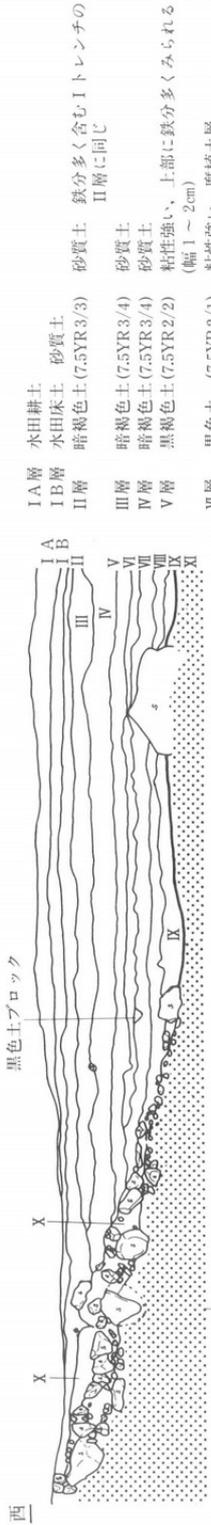
根々井氏館跡1 調査地点近景（北方から。断崖の上に見えるのは横和の集落。その下を湯川が西流している。）



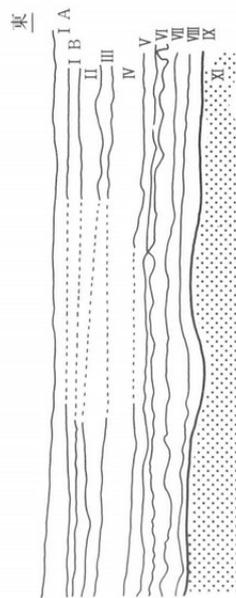
根々井氏館跡1 調査スナップ（北方から）



根々井氏館跡1 調査全体図 (1:500)



- | | | | |
|-------|----------------|------------------------------------|--------------------|
| IA層 | 水田耕土 | 砂質土 | 鉄分多く含むIトレンチのII層に同じ |
| IB層 | 水田床土 | 砂質土 | |
| II層 | 暗褐色土(7.5YR3/3) | 砂質土 | |
| III層 | 暗褐色土(7.5YR3/4) | 砂質土 | |
| IV層 | 暗褐色土(7.5YR3/4) | 砂質土 | |
| V層 | 黒褐色土(7.5YR2/2) | 粘性強い、上部に鉄分多くみられる(幅1~2cm) | |
| VI層 | 黒色土(7.5YR2/1) | 粘性強い、腐植土層 | |
| VII層 | 暗褐色土(7.5YR3/4) | 砂層しまりあり、須恵器小片出土 | |
| VIII層 | 黒色土(7.5YR1/7) | シルト質、粘性あり、腐植土層、弥生土器出土 | |
| IX層 | 褐色土(7.5YR4/6) | 砂層、オラサラしている、50~100cmの角礫みられる、弥生土器出土 | |
| X層 | 黒褐色土(7.5YR2/2) | 2~10cmの円礫、5~100cmの角礫多く含む | |
| XI層 | 褐色土(7.5YR4/3) | 上部から磨耗しない弥生土器多く出土、5~100cmの角礫多い | |



根々井氏館跡1Bトレンチ土層図(1:80)



- | | | | |
|------|---------------------------------|-----|--|
| IA層 | 水田耕土 | 砂質土 | 鉄分多く含む堅い |
| IB層 | 水田床土 | 砂質土 | 平安時代の土師器環出土 |
| II層 | 暗褐色土(7.5YR3/3) | 砂質土 | 弥生時代後期の土器出土 |
| III層 | 黒褐色土(7.5YR3/2) | 砂質土 | 弥生時代後期の土器出土 |
| IV層 | 暗褐色土(7.5YR3/3) | 砂質土 | 弥生時代後期の土器出土 |
| V層 | 褐色土(7.5YR4/4) | 砂層 | 北側に10cm大の円礫少量 |
| VI層 | 灰白色(Hue 5Y8/1)と黒褐色(7.5YR3/1)の砂層 | 砂質土 | 弥生時代後期の土器上部から出土、BトレンチのIX層と同層か? 下部の砂層は上部に10cm大の円礫多量、水平に堆積。遺物出土していない |

根々井氏館跡1Iトレンチ土層柱状図



根々井氏館跡 1 E トレンチ (東方から)



根々井氏館跡 1 E トレンチ土層



根々井氏館跡 1 E トレンチ (東方から)



根々井氏館跡 1 I トレンチ土器出土状態 (南西方から)



根々井氏館跡 1 E トレンチ (南方から)



根々井氏館跡 1 I トレンチ弥生土器出土状態 (西方から)

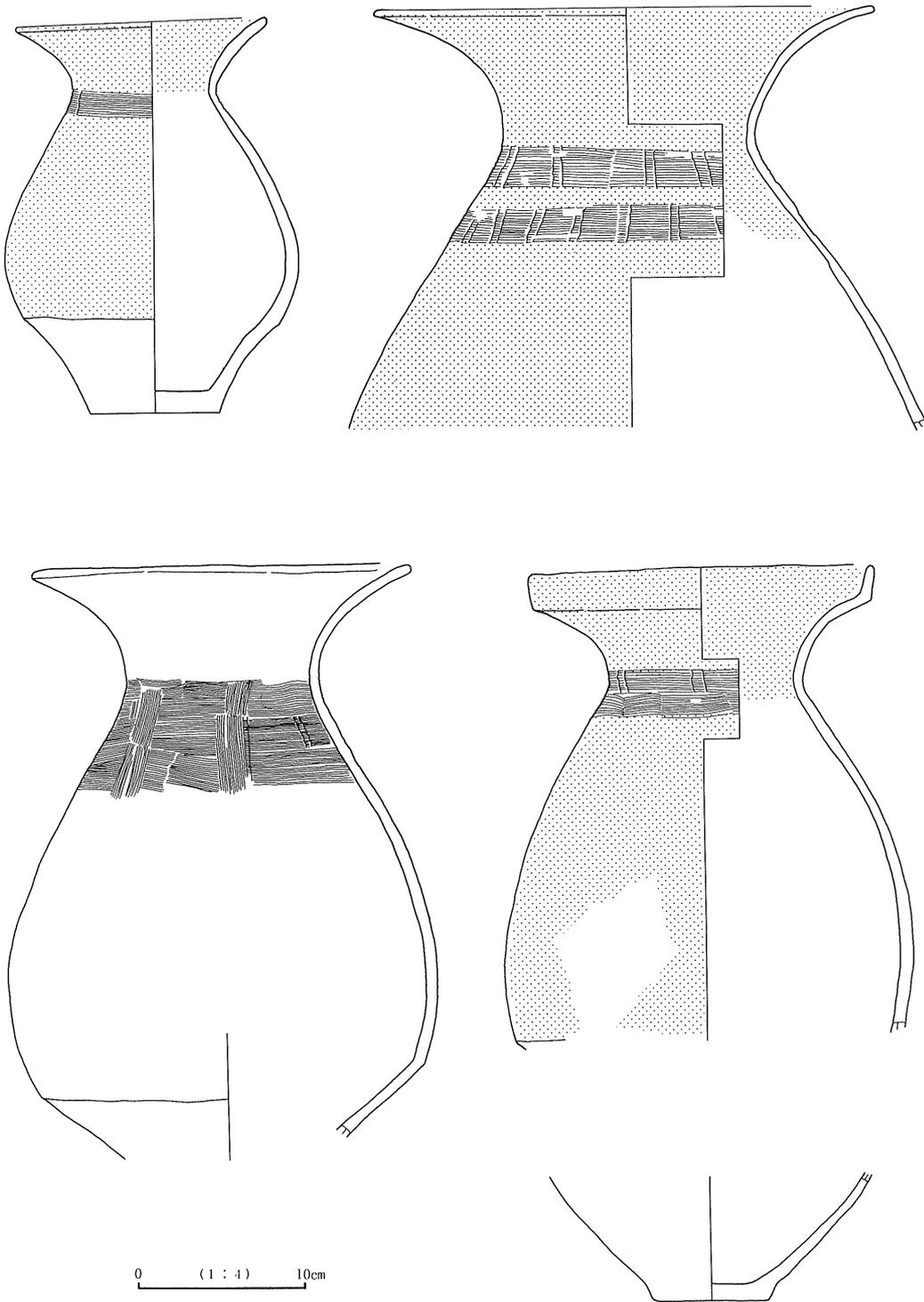


根々井氏館跡 1 E トレンチ (南東方から)

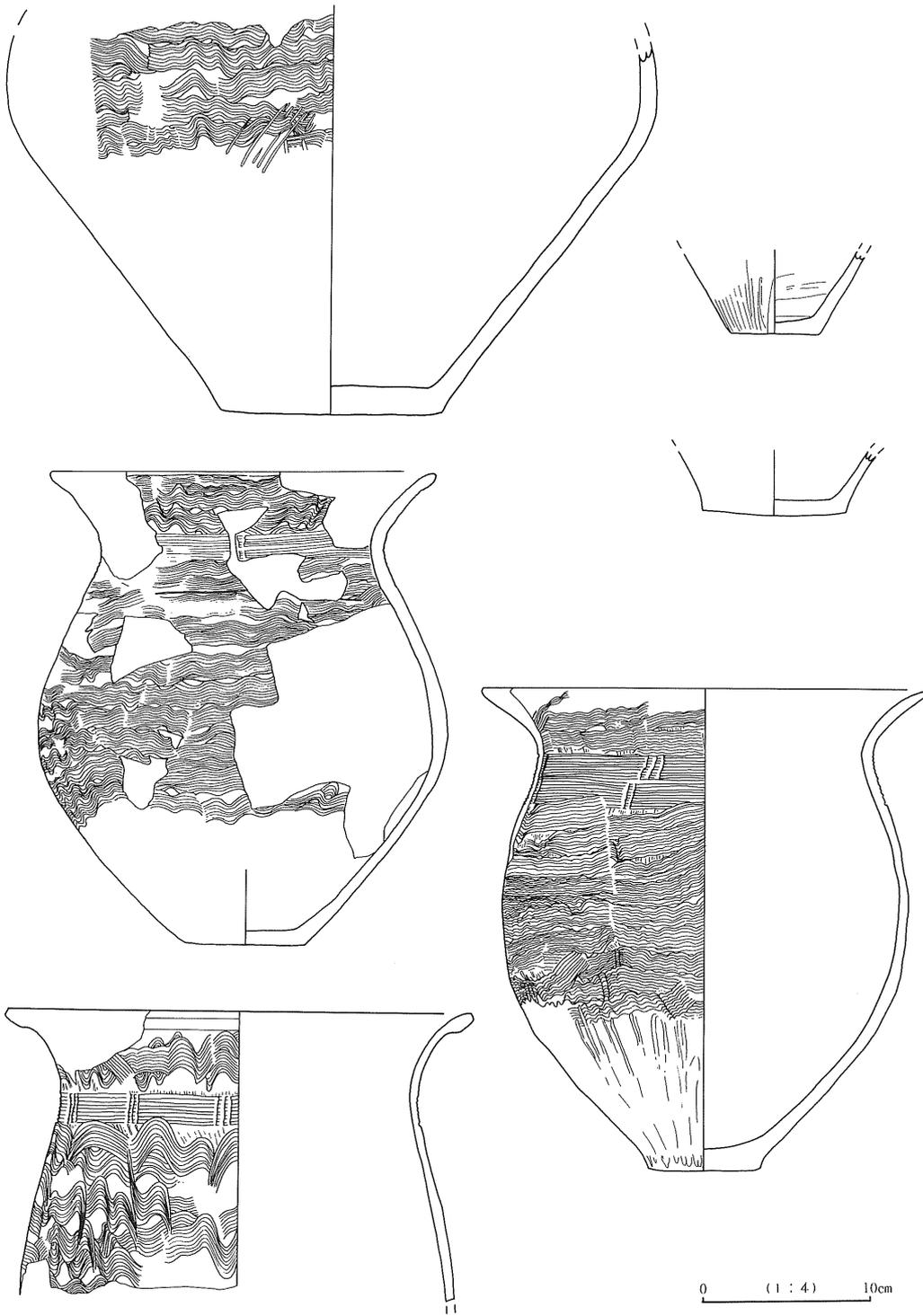


根々井氏館跡 1 I トレンチ弥生土器出土状態 (南方から)

13 根々井氏館跡

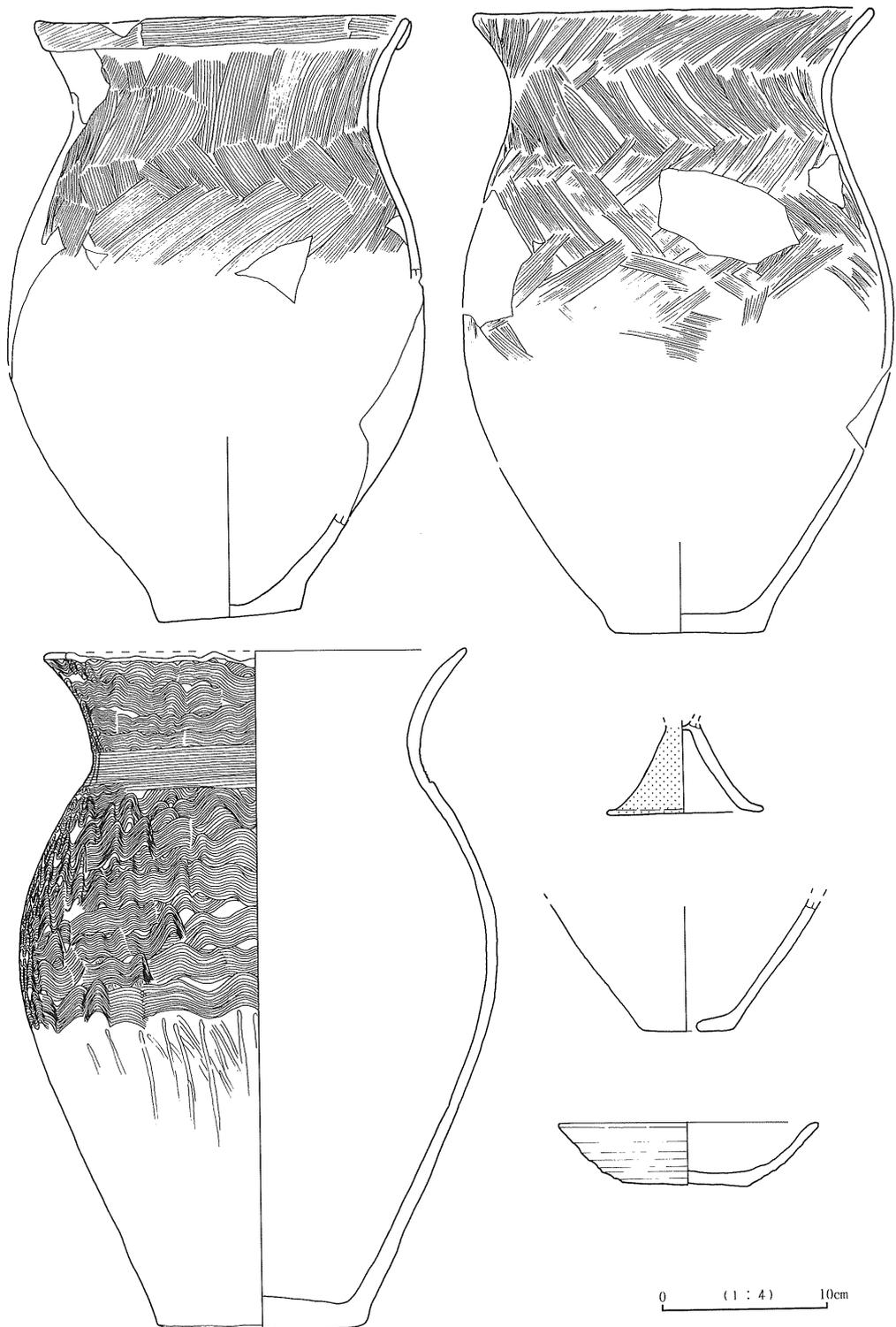


根々井氏館跡 1 I トレンチ出土土器実測図 (1 : 4)



根々井氏館跡1Ⅱトレンチ出土土器実測図（1：4）

13 根々井氏館跡



根々井氏館跡 1 I トレンチ出土土器実測図 (1 : 4)



根々井氏館跡1 I トレンチ出土土器 (1 : 4)



根々井氏館跡1Ⅰトレンチ出土土器（1：4）

試掘調査

14 蛇塚A遺跡群 1

所在地 佐久市大字安原1375他

開発主体者 佐久市企画調整課

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成5年6月7～10日

面積 12,000㎡

調査担当者 林 幸彦

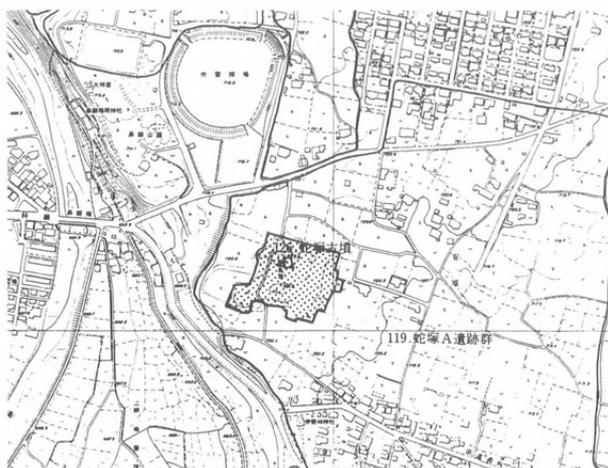
立地と経過

本遺跡群は、湯川左岸の台地上にあって標高713～721mを測る。1,000m南方には蛇塚B遺跡群があり、蛇塚B遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで平安時代の集落址が発掘調査されている。今回、佐久市が宅地造成を計画したため試掘調査を実施した。トレンチは幅1.5m間隔5mとし必要に応じて拡張した。

調査の結果

対象地は浅間火山灰流に覆われているが、西側高位面には埋没谷が存在し、旧地形は現況と大きく異なることが判明した。確認した遺構は、調査区南東隅低位面で古墳時代7世紀前半とみられる竪穴住居址1軒と南斜面で7世紀末～8世紀初頭とみられる終末期古墳1基（一部残存）でその他の遺構はみられなかった。

なお、調査対象地にある（財）長野県埋蔵文化財センター佐久調査事務所敷地部分（2,000㎡）については、1982年度（昭和57年度）に試掘調査を、また、造成時の1986年度（昭和61年度）に立会いをした結果、遺構遺物は存在しないことが確認されている。



蛇塚A遺跡群1位置図（1：10,000）



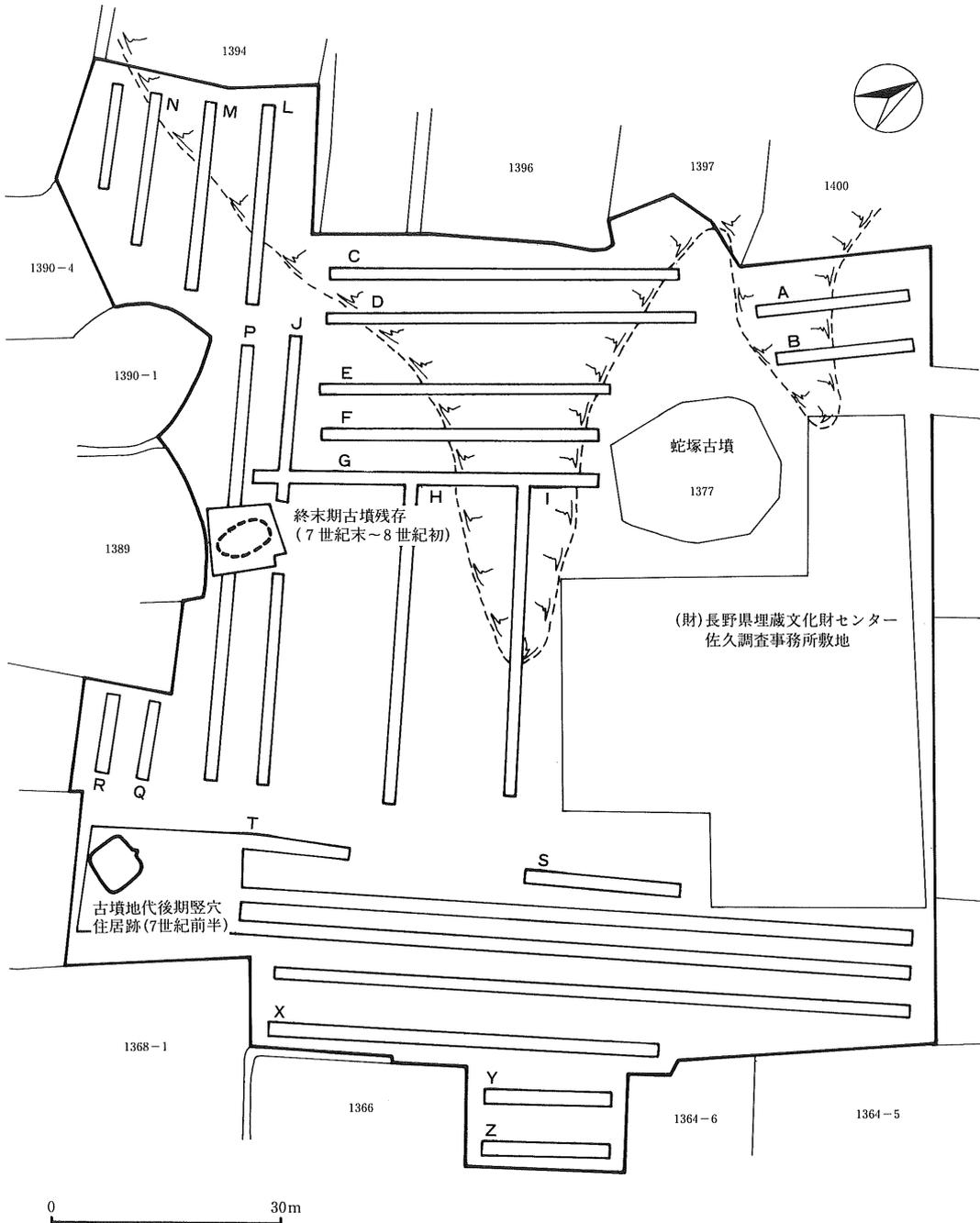
蛇塚A遺跡群1 Gトレンチ（南方から）



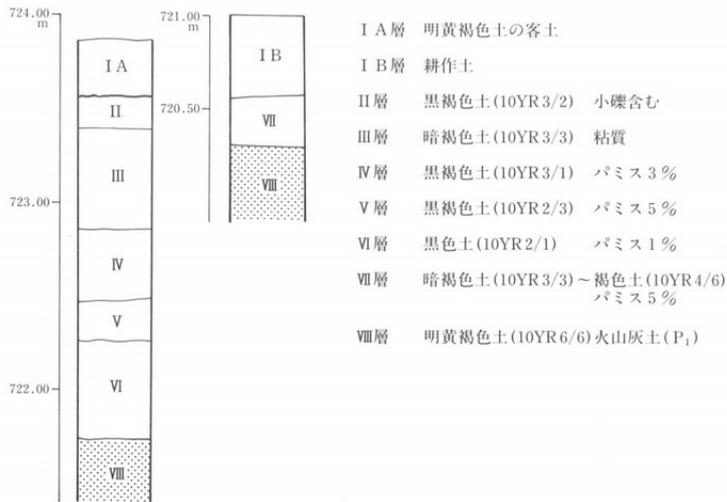
蛇塚A遺跡群1 E・F・Gトレンチ（北方から）

14 蛇塚A遺跡群1

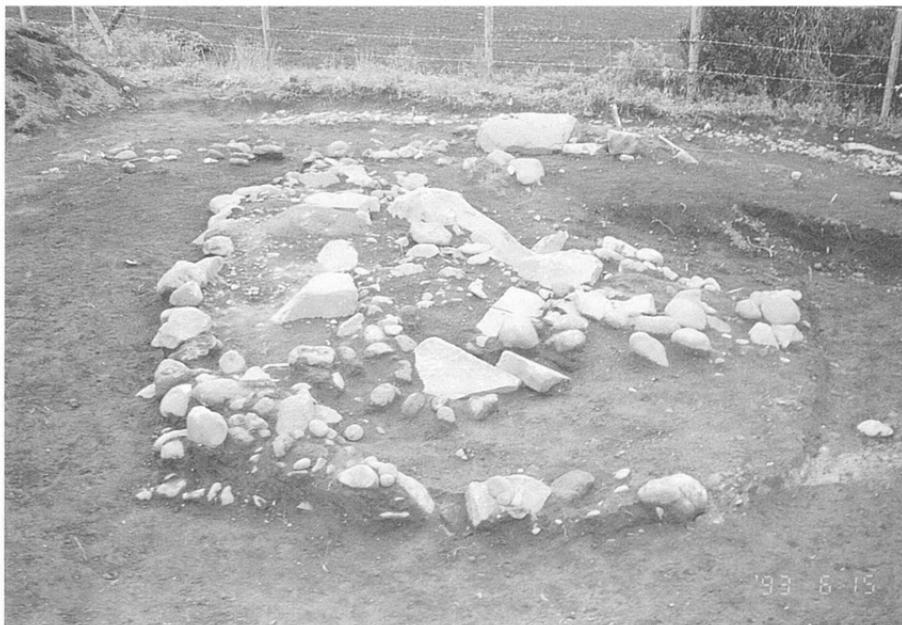
竪穴住居址と新発見の古墳については発掘調査を実施し、蛇塚古墳については団地内に保存する方向で協議中である。



蛇塚A遺跡群1調査全体図 (1 : 900)



蛇塚A遺跡群1土層柱状図



蛇塚A遺跡群1内古墳(新発見)近景(北方から)

14 蛇塚A遺跡群1



検出された古墳時代後期竪穴住居址（北方から）



A・Bトレンチ（南東方から）



Dトレンチ（南方から）



Kトレンチ（東方から）



Nトレンチ（東方から）



Pトレンチ（東方から）



Vトレンチ（北方から）



U・V・Wトレンチ（南方から）

試掘調査

15 上の城遺跡群 4

所在地 佐久市大字岩村田3084-1
他

開発主体者 (株)モリケン

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成5年6月28日

7月12日

面積 12,000㎡

調査担当者 林 幸彦

立地と経過

上の城遺跡群は佐久市岩村田に所在し隣接する一本柳遺跡群とともに佐久市でもっとも遺構密度の高い遺跡群である。

本調査地点は標高704mを測り、南の眼下には湯川が西流している。1948年度(昭和48年度)国道141号バイパス工事の際の発掘調査では古墳時代から平安時代竪穴住居址53棟等が検出されている。

また、1982年度には宅地造成に伴う西八日町遺跡の発掘調査では古墳時代から平安時代の竪穴住居址146棟等が調査されている。

今回、(株)モリケンが宅地造成を計画したので、試掘調査を実施し遺跡の保護措置を協議することになった。

調査の結果

トレンチA～Fから古墳時代～平安時代の竪穴住居址が少なくとも15棟以上検出された。

保護協議の結果、遺構確認面までの層厚50cmのところ、50cm程度の盛り土を行い造成工事を実施することとなった。



上の城遺跡群 4 位置図 (1 : 10,000)



上の城遺跡群 4 調査地点近景 (北東方から)

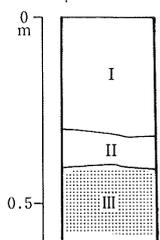


D・Eトレンチ (東方から)

15 上の城遺跡群 4

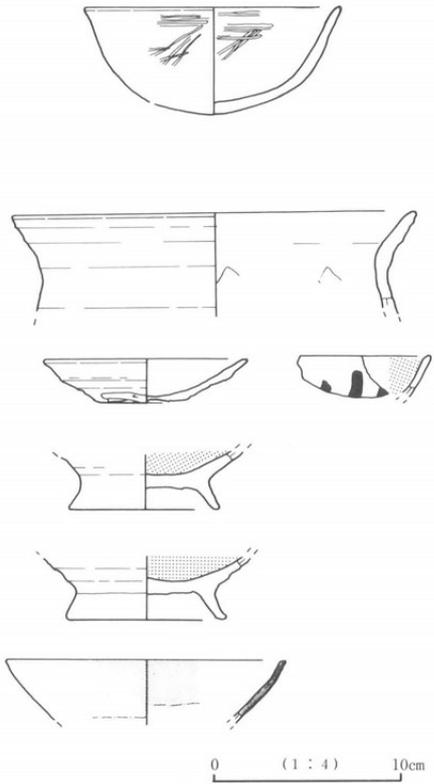


上の城遺跡群 4 調査全体図 (1 : 500)



- I層 耕作土
- II層 暗褐色土(10YR3/4)
- III層 褐色土(10YR4/6)
- 砂質土

上の城遺跡群 4 土層柱状図



上の城遺跡群4出土土器実測図(1:4)



Dトレンチ(西方から)



Eトレンチ(西方から)



Eトレンチ(東方から)



Aトレンチ (東方から)



Aトレンチ (西方から)



Bトレンチ (東方から)



Bトレンチ (西方から)



Fトレンチ (東方から)



Fトレンチ (西方から)



Cトレンチ (南方から)



Cトレンチ (北方から)

試掘調査

16 中金井遺跡群 1

所在地 佐久市大字小田井
1059-1 外
開発主体者 佐久市耕地課
開発事業名 道路工事
調査期間 平成5年7月16・20・21日
面積 1,350 m²
調査担当者 高村 博文

立地と経過

中金井遺跡群は、湯川右岸の田切り台地上に築城された金井城跡を含み、北の御代田町境にまで展開する広大な遺跡群である。1970 年度に国土館大学によって発掘調査された月古墳は本遺跡群の西南端に位置する。金井城跡は、本遺跡群の東端しにあつて 1988・1989 年度に長野県による小田井工場団地造成工事に伴い一の郭と二の郭一部を除く部分が発掘調査された後消滅している。

今回、金井城跡の北端にあたるかという部分に市道 4-29 号道路改良工事が佐久市耕地課によって計画されたので、試掘調査を実施し遺構の存在を確認することとなった。

調査の結果

試掘調査は、現道に沿って幅 1.2 m のトレンチ設定し重機により表土を除去し行った。すべてのトレンチで遺構・遺物は検出されなかった。



中金井遺跡群 1 位置図 (1 : 10,000)



中金井遺跡群 1 調査地点近景 (北西方から)



中金井遺跡群 1 トレンチ近景 (北西方から)

16 中金井遺跡群 1



中金井遺跡群 1 調査全体図 (1 : 1,000)



中金井遺跡群1 調査地点（北西方から）



中金井遺跡群1 トレンチ（北西方から）



中金井遺跡群1 調査地点（南東方から）



中金井遺跡群1 トレンチ（南東方から）



中金井遺跡群1 トレンチ（南東方から）



中金井遺跡群1 トレンチ（南東方から）



中金井遺跡群1 トレンチ（南東方から）



中金井遺跡群1 トレンチ（北方から）

試掘調査

17 唄坂遺跡 1

所在地 佐久市大字小田井1266-4他
 開発主体者 佐久市土木課
 開発事業名 道路工事
 調査期間 平成5年7月20日
 面積 3,818.82㎡
 調査担当者 林 幸彦



唄坂遺跡 1 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

唄坂遺跡は湯川の右岸にあって、佐久市と御代田町との境に所在し標高は720~740mを測る。湯川は本地点まで西流し、金井城跡にぶつかり流路を南に変える。

唄坂遺跡は、湯川の浸食・堆積作用と上位台地からの崩落土の堆積から形成された段丘に乗っている。本遺跡の西側に形成されている断崖上には、金井城跡があり比高差は25mを計測する。金井城は小田井工場団地造成に係り1988・1989年度に発掘調査されている。本遺跡では縄文~平安時代の遺物が表採されている。対岸には横根古墳群が存在する。本遺跡と同様な地形に立地する1,500mほど下流の栗毛坂遺跡群の栗毛坂遺跡Aが長野県埋蔵文化財センターにより発掘調査された。弥生時代後期末~古墳時代前期中葉の竪穴住居址5軒、古墳時代後期後半前葉の竪穴住居址4軒等が検出された。

その他縄文時代の早期末~晩期末葉の各時期に渡る土器群も出土している。

今回、佐久市土木課が道路工事を計画したため試掘調査を実施した。

調査の結果

緩斜面は、すべて重機により表土を除去し精査したが遺構は検出されなかった。

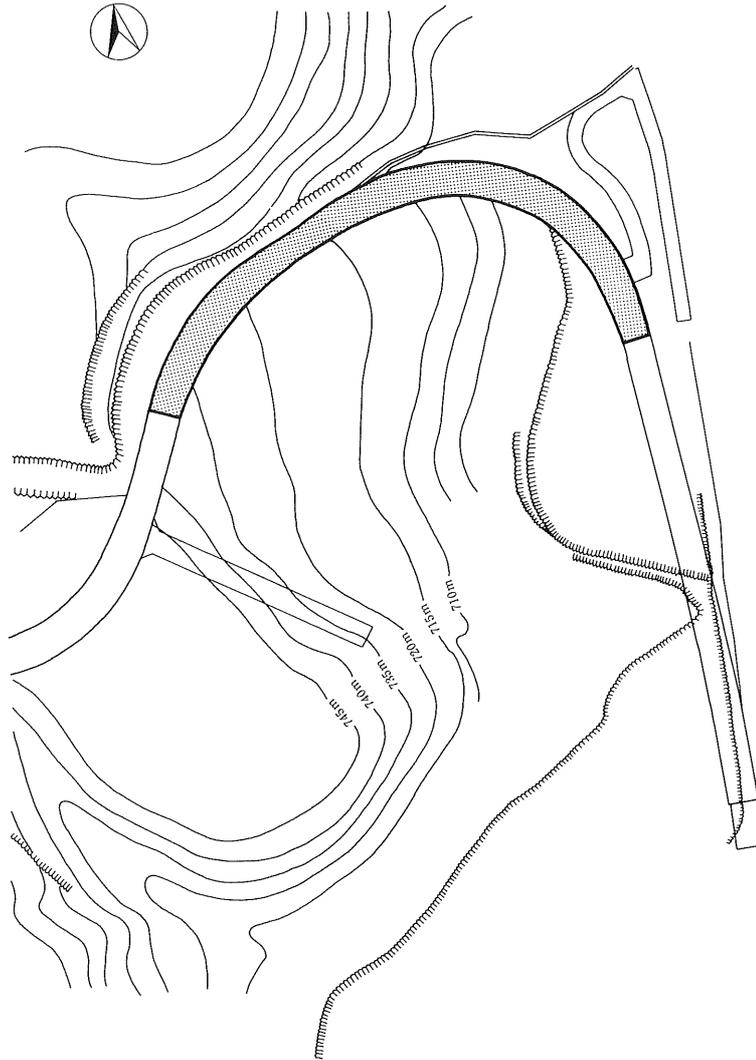


唄坂遺跡 1 調査地点遠景 (南西方から)

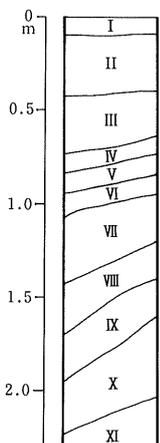


唄坂遺跡 1 トレンチ近景 (西方から)

唄坂遺跡1 調査全体図
(1 : 2,000)



唄坂遺跡1 土層柱状図



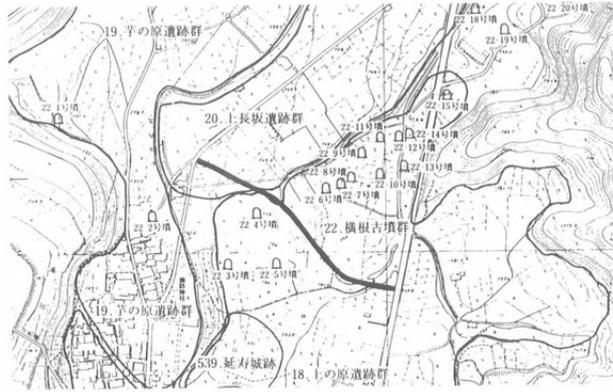
- I層 客土
- II層 耕作土
- III層 褐色土(7.5YR4/4) 灰白色の軽石(2~3cm)を含む。
- IV層 黒褐色土(7.5YR3/2)
- V層 黒色土(7.5YR2/1) 腐蝕土
- VI層 暗赤褐色土(2.5YR3/4) 鉄分多く含む
- VII層 灰褐色土(7.5YR4/2) 砂質土
- VIII層 褐灰色土(7.5YR4/1) 砂質土 黄色土(2.5Y7/8)をブロック状に含む
- IX層 黒褐色土(7.5YR3/1) 砂質土 黄色土(2.5Y7/8)をブロック状に含む 灰白色の軽石(4~5cm)を含む
- X層 褐灰色土(7.5YR4/1) 非常にかたい
- XI層 黄橙色土(7.5YR7/8) 火山灰土(P₁)か?かたい

18 上長坂遺跡群1, 19 上の原遺跡群1

試掘調査

18 上長坂遺跡群1

所在地 佐久市大字横根252-1他
 開発主体者 佐久市土木課
 開発事業名 道路工事
 調査期間 平成5年7月21日
 面積 450㎡
 調査担当者 林 幸彦



上長坂遺跡群1上の原遺跡群1位置図(1:10,000)

立地と経過

上長坂遺跡群および上の原遺跡群は、佐久市の北東端の横根に所在し、標高743m~753mを測る。

上長坂遺跡群は、湯川の左岸で二段目の段丘上にある。遺跡群の北側には、横根古墳群の16号・17号墳が所在する。上の原遺跡群は、さらに、高位の段丘上であり北半は、古墳時代後期の横根古墳群が13基群集している。平尾富士山の北西麓にあたる小さな尾根の東側には、スキー場開発に伴う詳細分布で新たな棚畑遺跡が発見されていて、古墳時代前期の集落等が発掘調査されている。

今回、佐久市土木課が道路工事を計画したため試掘調査を実施した。

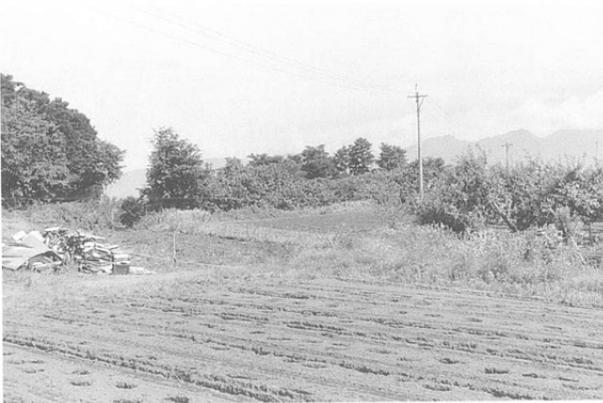
試掘調査

19 上の原遺跡群1

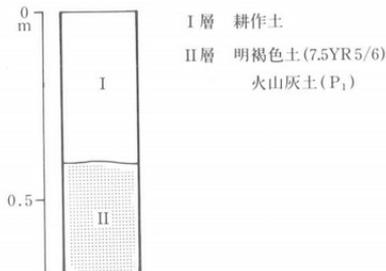
所在地 佐久市大字横根252-1他
 開発主体者 佐久市土木課
 開発事業名 道路工事
 調査期間 平成5年7月21日
 面積 2,796㎡
 調査担当者 林 幸彦

調査の結果

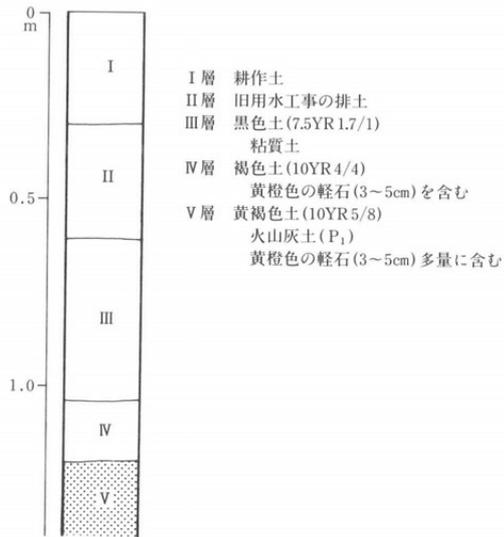
道路予定幅を重機により表土を除去し精査したが遺構は検出されなかった



上の原遺跡群1調査地点近景(東方から。右手の桃畑一帯に横根古墳群)



上長坂遺跡群1土層柱状図



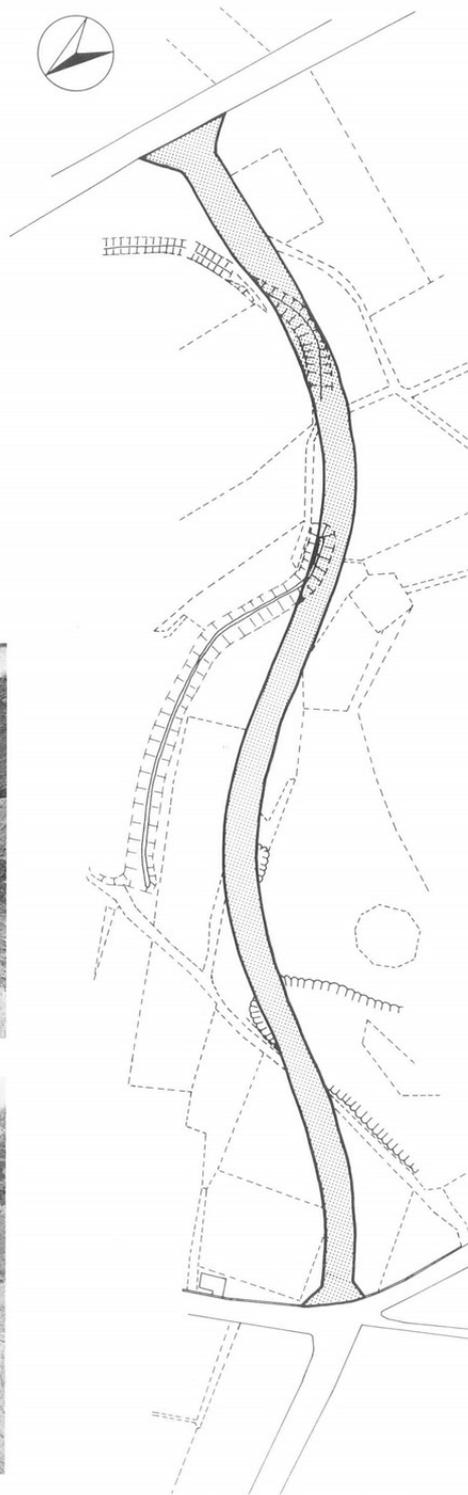
上の原遺跡群 1 土層柱状図



上長坂遺跡群 1 トレンチ (南西方から)



上の原遺跡群 1 トレンチ (北方から。重機の
後方に横根古墳群 4 号墳)



上長坂遺跡群 1 上の原遺跡群 1 調査全体図
(1 : 2,000)

試掘調査

20 東内池遺跡 3

所在地 佐久市大字新子田1700他
 開発主体者 (社)佐久市開発公社
 開発事業名 宅地造成
 調査期間 平成5年7月21日
 面積 1,652.54㎡
 調査担当者 高村 博文

立地と経過

本遺跡は、田切りの台地上にあって浅間火山の第一軽石流に覆われている。標高は708mを測る。1985年度(昭和60年度)には、佐久市開発公社の宅地造成に先立ち試掘調査が行われている。

今回、佐久市開発公社が、さらに、北側を造成することになり試掘調査の必要が生じた。

調査の結果

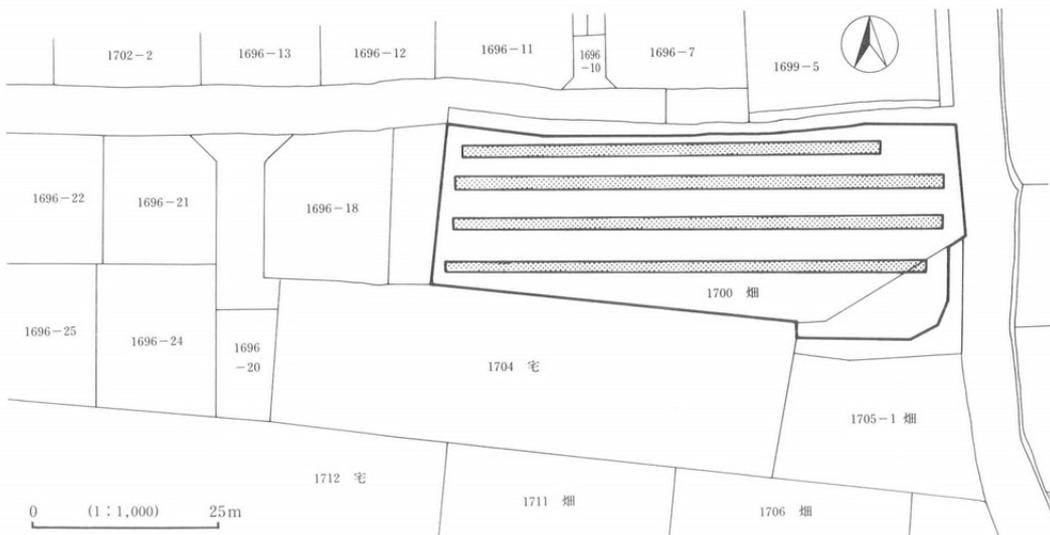
調査対象地内に幅約1.5mのトレンチを東西に4本入れ精査したが遺構遺物は検出されなかった。



東内池遺跡 3 位置図 (1 : 10,000)



東内池遺跡 3 トレンチ近景 (東方から)



東内池遺跡 3 調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

21 寺畑遺跡群 3

所在地 佐久市大字根々井418

開発主体者 (有)荒船開発

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成5年7月22・23日

面積 2,697㎡

調査担当者 高村 博文 富沢 一明

立地と経過

寺畑遺跡群は、湯川の左岸に位置し、標高684内外を測る。表面採集により縄生時代～平安時代の遺物が知られている

今回、有限会社荒船開発が宅地造成を計画したので、試掘調査を実施することになった。

調査の結果

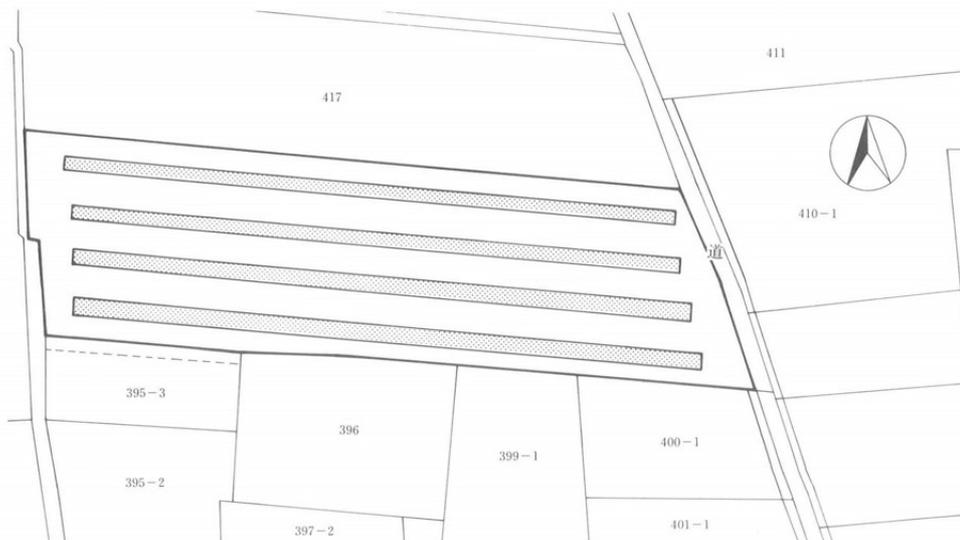
対象地内に幅1.5mのトレンチを東西に4本入れたが、遺構遺物は検出されなかった。



寺畑遺跡群3位置図 (1 : 10,000)



寺畑遺跡群3トレンチ近景 (西方から)



寺畑遺跡群3調査全体図 (1 : 1,000)

試掘調査

22 曾根新城遺跡V

所在地 佐久市大字根々井418

開発主体者 (有)荒船開発

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成5年7月22・23日

面積 2,697m²

調査担当者 高村 博文 富沢 一明

立地と経過

曾根新城遺跡は、佐久市の北部浅間山南麓の末端部にあり、南西にのびる田切りの台地上にある。

今回、中沢健氏が貸店舗を建築することになり試掘調査を実施した。

調査の結果

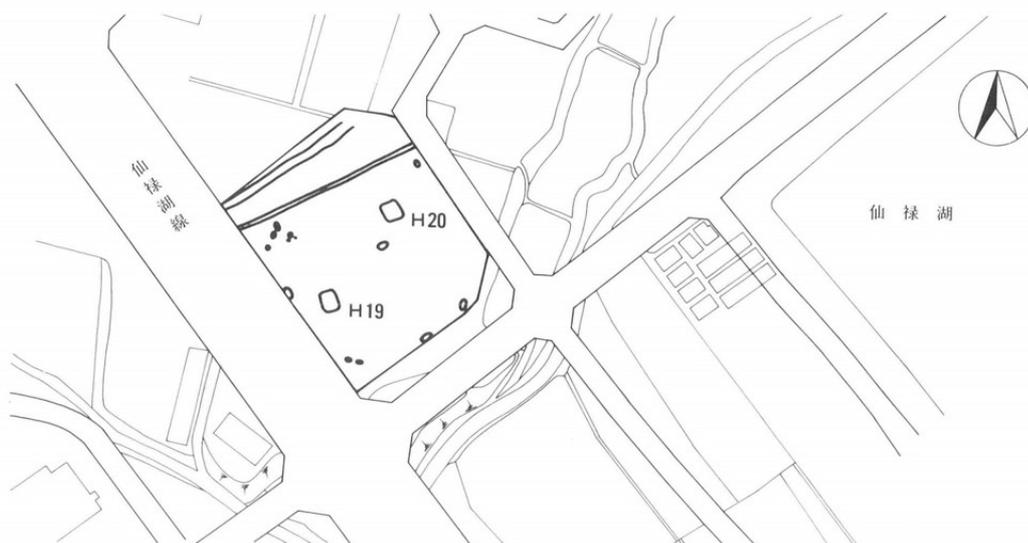
試掘トレンチを7本設定し精査したところ、平安時代の竪穴住居址2軒等が検出された。保護協議の結果、建造物の基礎工事が遺構にかかることから発掘調査を実施することになった。



曾根新城遺跡V位置図 (1:10,000)



曾根新城遺跡V検出遺構近景 (南東方から)



曾根新城遺跡V調査全体図 (1:2,000)

試掘調査

23 長土呂遺跡群 2

所在地 佐久市大字長土呂166-1他

開発主体者 (株)浜田

開発事業名 ガソリンスタンド建設

調査期間 平成5年8月26日

面積 1,242㎡

調査担当者 高村 博文



長土呂遺跡群2位置図(1:10,000)



長土呂遺跡群2トレンチ近景(北方から)

立地と経過

長土呂遺跡群は、浅間山に源を發する濁川の浸食による田切り台地上に所在する。標高は720~760mを測る。

本調査地点の東側に隣接する国道141号バイパスにかかる発掘調査で弥

生時代~平安時代の竪穴住居址60軒等が調査され、さらに、その東方の佐久流通業務団地造成地や仙祿湖線内では古墳時代~平安時代の竪穴住居址1,000軒等が検出されている。

今回、株式会社浜田がガソリンスタンドを建設することになり試掘調査を実施した。

調査の結果

トレンチ北側から、時期性格不明の溝が1基確認された。



長土呂遺跡群2調査全体図(1:1,000)

試掘調査

24 境内遺跡 1

所在地 佐久市大字新子田277他
 開発主体者 (有)新栄開発
 開発事業名 宅地造成
 調査期間 平成5年10月7日
 面積 1,465㎡
 調査担当者 林 幸彦
 立地と経過

境内遺跡は、香坂川の右岸に所在し、標高698m内外を測る。弥生時代～平安時代の遺物が表面採集されている。

今回、有限会社新栄開発が宅地造成を計画したので試掘調査を実施した。

調査の結果

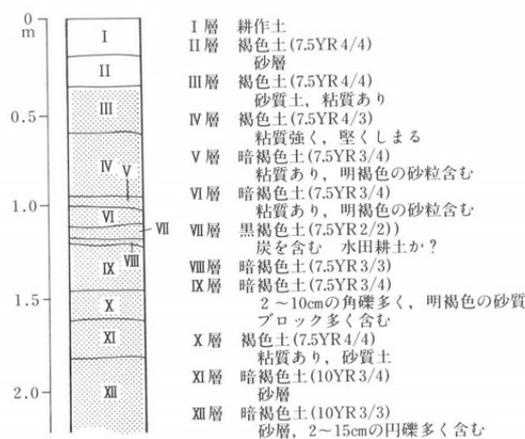
東西方向に2本のトレンチを設定し、重機により表土を除去し精査した。
 遺構遺物とも検出されなかった。



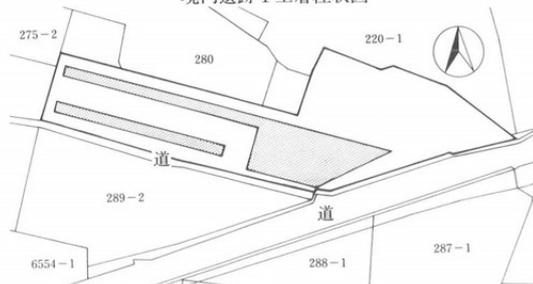
境内遺跡 1 位置図 (1 : 10,000)



境内遺跡 1 トレンチ近景 (東方から)



境内遺跡 1 土層柱状図

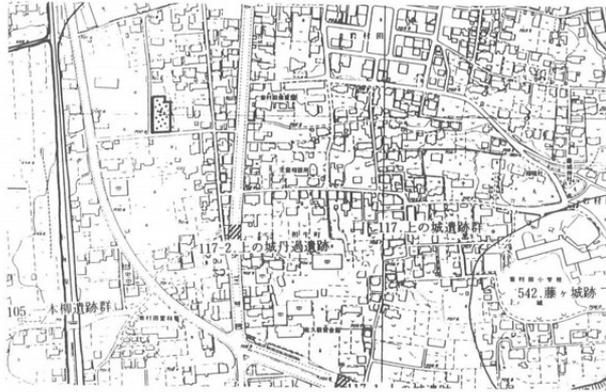


境内遺跡 1 調査全体図 (1 : 1,500)

試掘調査

25 上の城遺跡群 3

所在地 佐久市大字岩村田2114-1
 開発主体者 小林 浩之
 開発事業名 共同住宅建築
 調査期間 平成5年10月13日
 面積 1318.23㎡
 調査担当者 林 幸彦



上の城遺跡群3位置図 (1:10,000)

立地と経過

上の城遺跡群は、湯川に近い台地に大規模な集落が検出されている。上の城遺跡、西八日町遺跡では、弥生時代中期・後期、古墳時代、奈良平安時代の集落が発掘調査されている。

今回、小林浩之氏が共同住宅を建築することになり試掘調査を実施した。



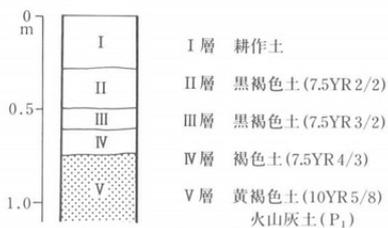
上の城遺跡群3トレンチ近景 (南方から)

調査の結果

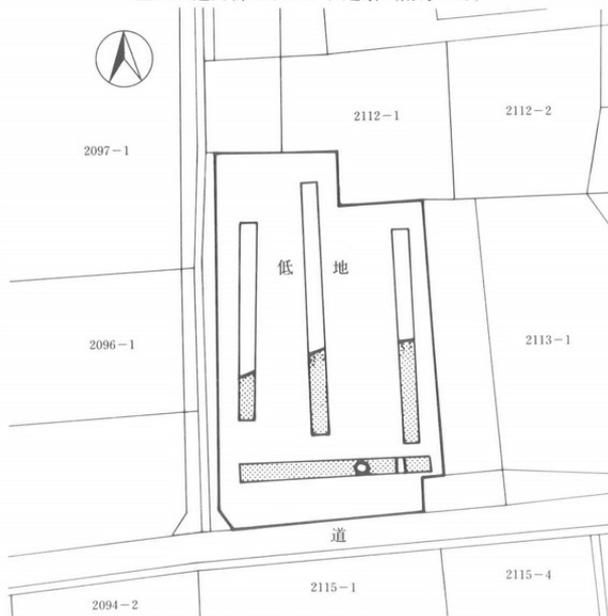
南端のトレンチより土坑1、溝1基が検出された。基礎工事が及ばないため埋め戻しをした。



D 1 出土石鏃 (1:1)



上の城遺跡群3土層柱状図



上の城遺跡群3調査全体図 (1:1,000)

試掘調査

26 上小平遺跡 1

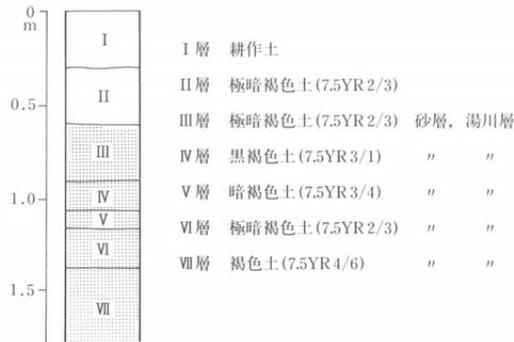
所在地 佐久市大字岩村田字上小平
 開発主体者 佐久建設事務所
 開発事業名 県道拡幅
 調査期間 平成 5 年10月14日
 面積 約400㎡
 調査担当者 林 幸彦



上小平遺跡 1 位置図 (1 : 10,000)

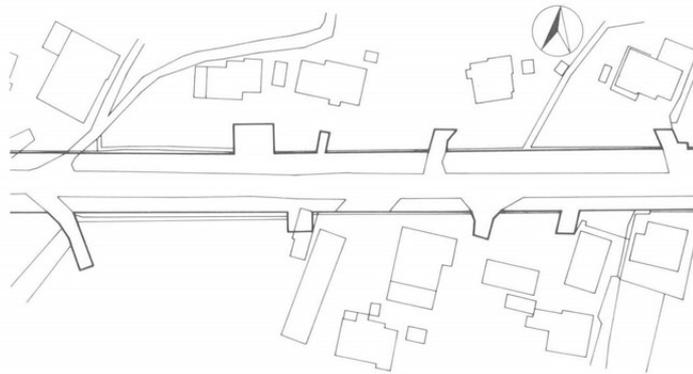
立地と経過

上小平遺跡は、湯川の左岸高位から 2 段目の南北に細長い台地上にある。上位の台地には横敷古墳が存在する。



上小平遺跡 1 土層柱状図

今回、昨年に引き続き佐久建設事務所が県道草越・豊昇・佐久線を拡幅することになり試掘調査を実施した。



上小平遺跡 1 調査全体図 (1 : 1,500)

調査の結果

現道脇の畑にトレンチを入れ精査したが遺構遺物とも検出されなかった。



上小平遺跡 1 トレンチ近景 (東方から)

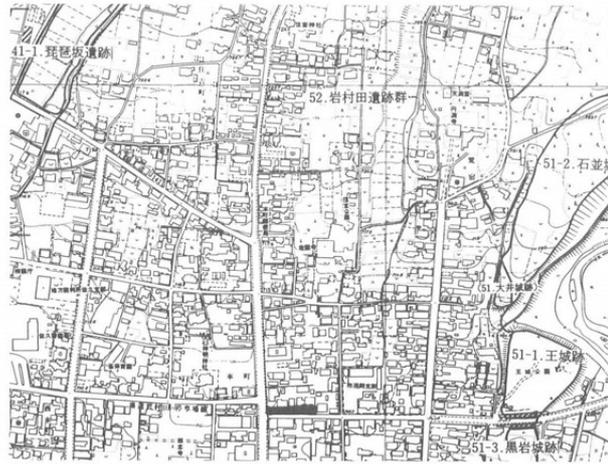


上小平遺跡 1 トレンチ近景 (西方から)

試掘調査

27 岩村田遺跡群 菅田遺跡 2

所在地 佐久市大字岩村田字菅田
開発主体者 佐久建設事務所
開発事業名 県道拡幅
調査期間 平成5年10月25・27日
面積 約400㎡
調査担当者 林 幸彦



菅田遺跡 2 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

岩村田遺跡群の南側大半は、市街地化が進んでいる。

菅田遺跡は、都市計画街路事業西本町荒宿線建設工事および浅麓水道企業団庁舎建設工事に伴い、4次に渡る発掘調査が実施されている。その結果本遺跡帯は円満寺の西側にみられる低湿地が本遺跡まで南下し伸びていることが判明している。出土遺物は、中世の石臼や弥生時代の土器片があって、大井城との関連や古代の生産地の可能性が指摘されている。

調査の結果

トレンチの範囲内からは、土坑2基とピット3個が検出されたが、時期性格とも不明である。

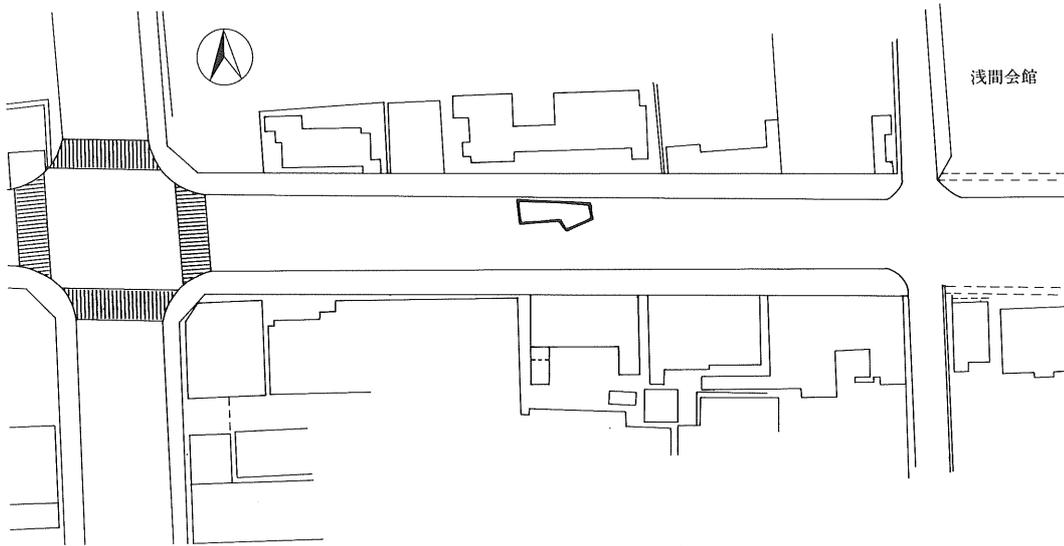


菅田遺跡 2 調査地点近景 (東方から)

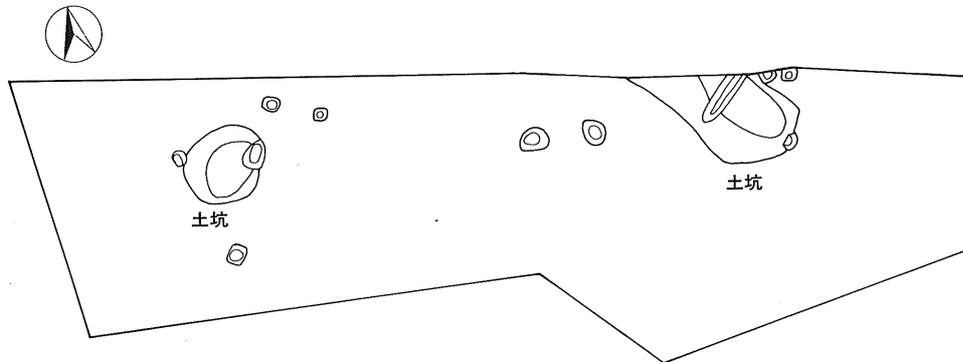


菅田遺跡 2 検出遺構近景 (西方から)

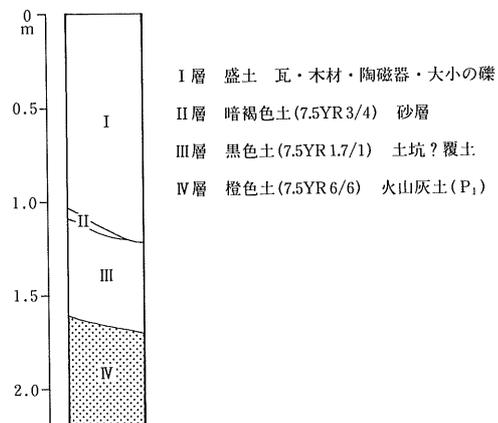
27 岩村田遺跡群 菅田遺跡群 2



菅田遺跡 2 調査全体図 (1 : 1,000)



菅田遺跡 2 検出遺構全体図 (1 : 80)



菅田遺跡 2 土層柱状図

試掘調査

28 橋ヶ窪遺跡1 十二の前遺跡1

所在地 佐久市大字上平尾2361-1
開発主体者 佐久市土木課
開発事業名 市道整備事業
調査期間 平成5年11月26・27日
面積 12,208.9m²
調査担当者 林 幸彦

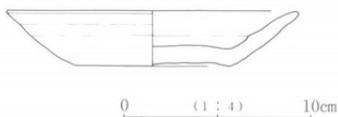
立地と経過

橋ヶ窪遺跡、十二の前遺跡は、平尾富士山の南西麓の緩斜面にあって、標高は橋ヶ窪遺跡が744m内外、十二の前遺跡が760m～790mを測る。

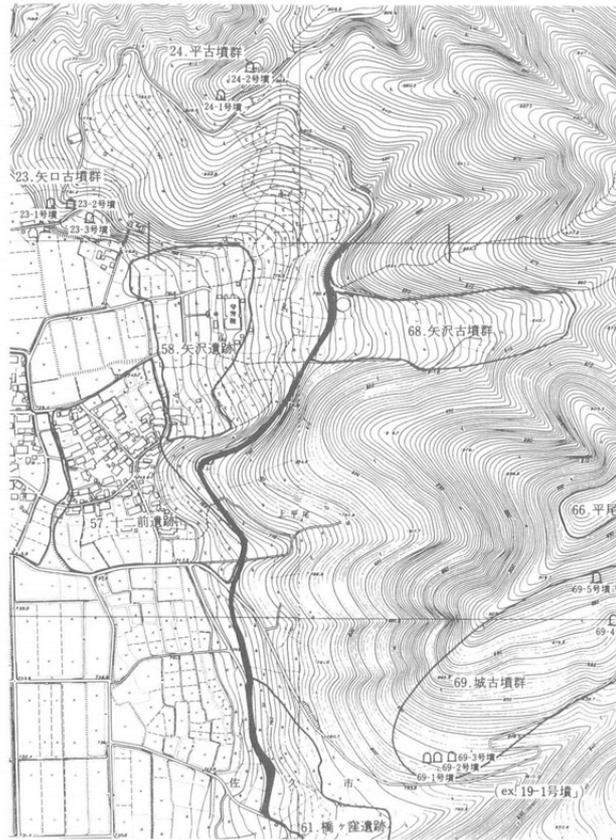
橋ヶ窪遺跡の南端には、一本松古墳群があって、平尾山都市公園事業に先だって発掘調査され公園事業により破壊された。十二の前遺跡の南に隣接して古宿遺跡が団体営圃場整備に際し新たに発見調査されて、平安時代の竪穴住居址が検出された。

調査の結果

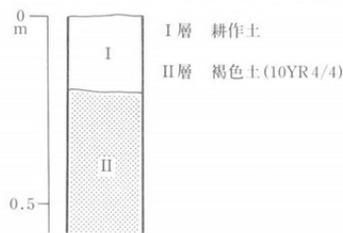
十二の前遺跡1からは遺構遺物とも検出されず、橋ヶ窪遺跡1からは、平安時代の土師器杯と羽釜が出土したが、遺構は確認されなかった。



橋ヶ窪遺跡1 試掘トレンチ出土土器実測図



橋ヶ窪遺跡1 十二の前遺跡1位置図 (1:10,000)



橋ヶ窪遺跡1 土層柱状図



十二の前遺跡1 トレンチ遠景 (北西方から)

試掘調査

29 白山遺跡群 2

所在地 佐久市大字三河田564-1他
大字今井748-2

開発主体者 (株)創美

開発事業名 宅地造成

調査期間 平成5年11月24～26・29日

面積 2,614.97㎡

担当者 林 幸彦

立地と経過

白山遺跡群は湯川左岸および千曲川右岸にあって、両河川の浸食を免れた東西に細長い台地上にのっている。標高は666m～669mを測る。眼下の千曲川との比高30mである。東に隣接して古墳時代前期、平安時代の竪穴住居址5軒が発掘調査された今井西原遺跡が、南西の断崖の対岸には、今井城跡が存在する。

今回、株式会社創美が宅地を造成することになり試掘調査を実施した。

調査の結果

南北に幅2mのトレンチを設定し、精査した。必要に応じて拡張をした。その結果、12軒の弥生時代中期、古墳時代後期、平安時代の竪穴状住居址と掘立柱建物址1棟、溝状遺構、土坑等を検出した。遺構は、比較的对象地北側に密集している。

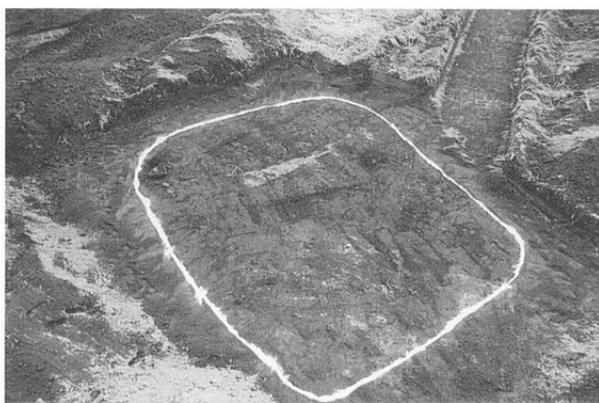
保護協議の結果、表土より50cmの盛り土で造成されることになった。



白山遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

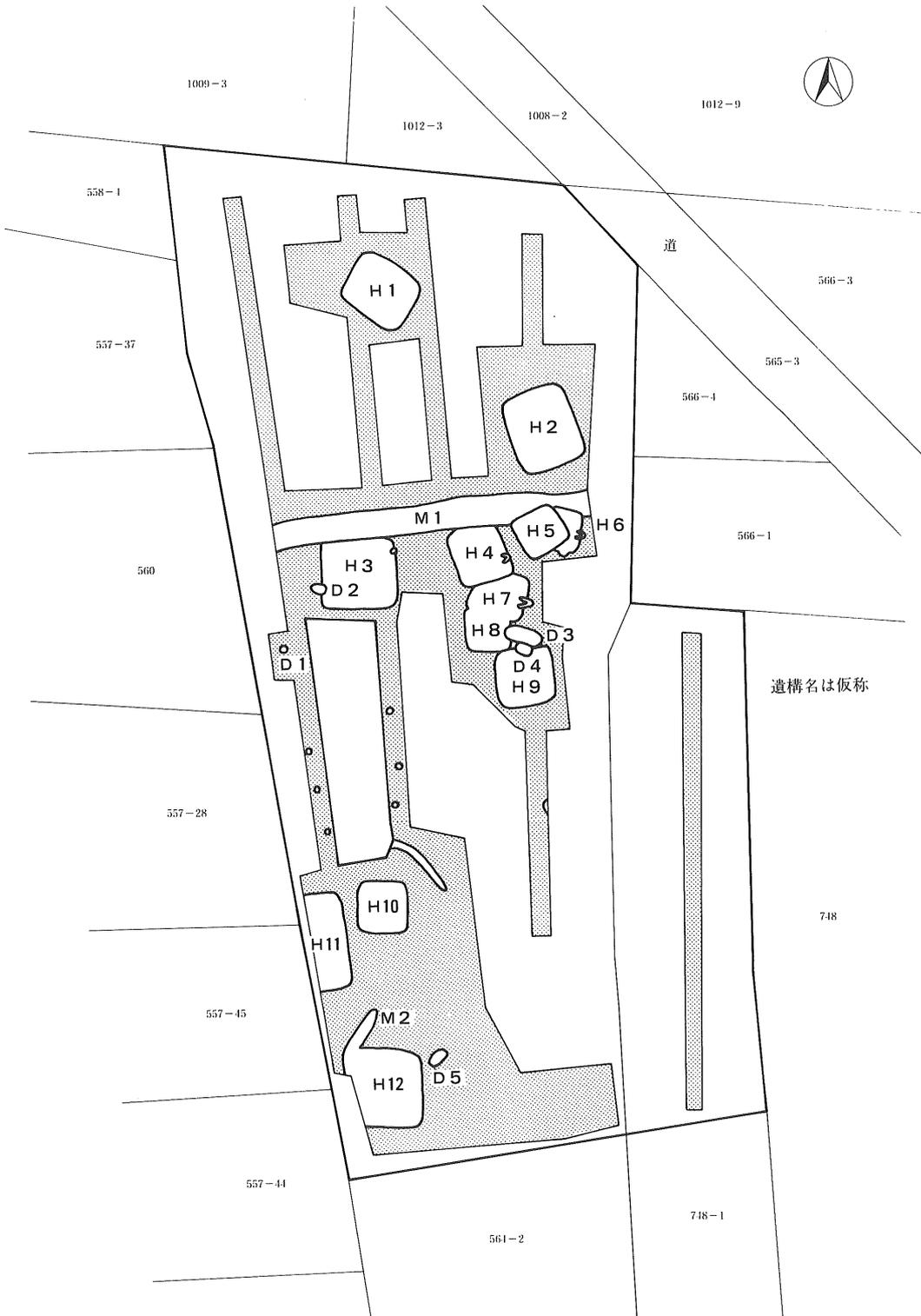


白山遺跡群 2 検出遺構近景 (北方から)



白山遺跡群 2 H 1 号 (仮称) 住居址近景 (北方から)

29 白山遺跡群 2



白山遺跡群 2 調査全体図 (1 : 500)

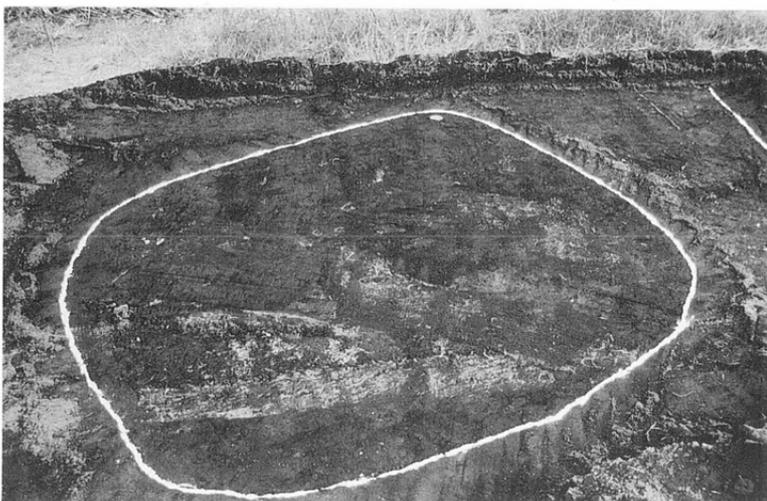
白山遺跡群2 検出遺構
(北方から M1, M4号
住居址～H9号住居址)



白山遺跡群2 検出遺構
(北方から H2号住居址～
H9号住居址 右手中央は
H3号住居址)



白山遺跡群2 検出遺構
(西方から H2号住居址)





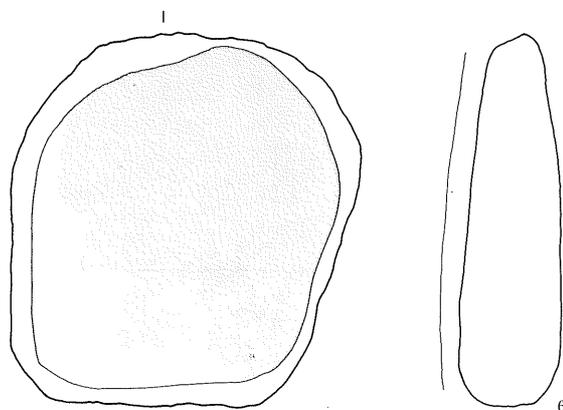
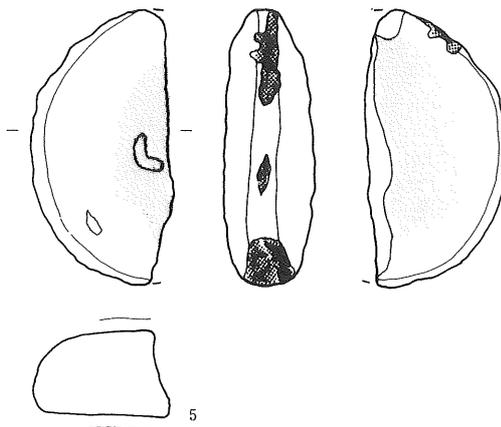
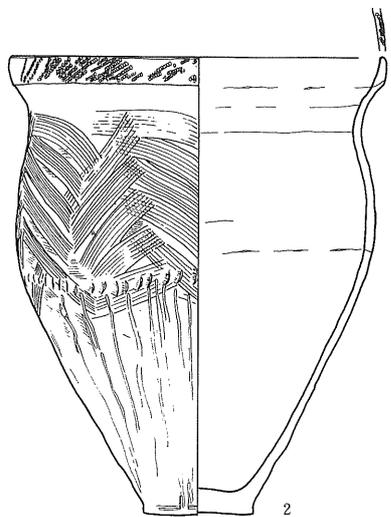
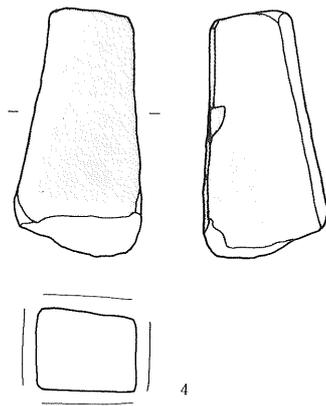
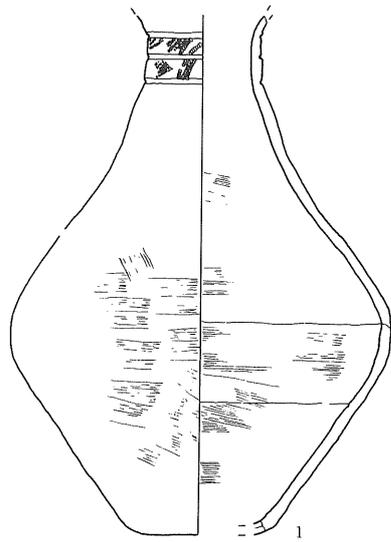
白山遺跡群 2 検出遺構
(北東方から H10号
住居址～H12号住居址)



白山遺跡群 2 検出遺構
(北方から H5号住居址～
H12号住居址 F1号掘立
柱建物址)



白山遺跡群 2 検出遺構
(北東方から M1号溝状
遺構 H5号住居址)



0 (1:4) 10cm

1~5は 1:4
6は 1:6

0 (1:6) 15cm

白山遺跡群2出土遺物実測図

30 一本柳遺跡群 4 中長塚遺跡 1

試掘調査

30 一本柳遺跡群 4
中長塚遺跡 1

所在地 佐久市大字岩村田1796他
 開発主体者 佐久下水道組合
 開発事業名 佐久下水道事業
 調査期間 平成5年12月1・2・27日
 面積 614.6㎡
 担当者 林 幸彦



一本柳遺跡群 4 中長塚遺跡 1 位置図 (1:10,000)



一本柳遺跡群 4 中長塚遺跡 1 調査全体図 (1:500)

立地と経過

本調査地点は一本柳遺跡群の北西端にあつて、北側は前川へ向かう低地へ続いている。一本柳遺跡群内では、北一本柳遺跡、東一本柳遺跡、西一本柳遺跡 I、西一本柳遺跡 II、一本柳遺跡群 4 等が発掘調査・試掘調査されていて、東西1,000m南北500mの50万㎡に弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良時代、平安時代の集落の存在が知られている。

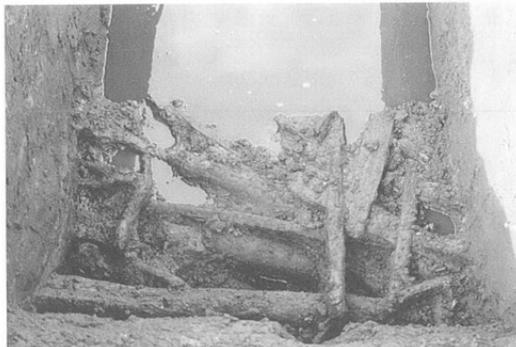
今回、佐久公共下水道事業に伴い試掘調査を実施した。

調査の結果

一本柳遺跡群 4 では、西一本柳遺跡 II の H 1 号住居址の北コーナーが確認でき、中長塚地籍では堰状の遺構が検出され新たな遺跡の発見となった。



中長塚遺跡 1 トレンチ近景 (南方から)



中長塚遺跡 1 堰状遺構検出状況 (西方から)

試掘調査

31 辻遺跡 2

所在地 佐久市大字野沢587-1,
605-2

開発主体者 依田 貞太郎

開発事業名 貸店舗建築

調査期間 平成5年12月3・4日

面積 1,443m²

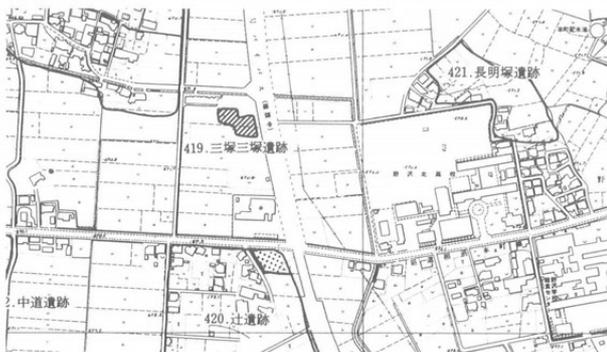
担当者 林 幸彦

立地と経過

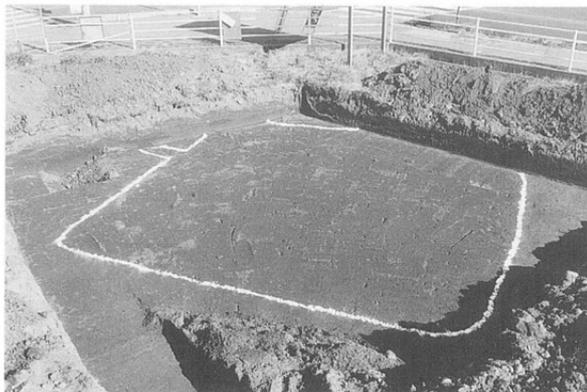
辻遺跡は、野沢平のほぼ中央にあって標高は672mを測る。

周辺は圃場整備が終了し、地形は一変している。野沢平は千曲川と片貝川によって帯状の微高地が南北に形成されている。多くの遺跡がこの微高地上に所在する。辻遺跡の北には、圃場整備に伴い三塚三塚遺跡、市道遺跡、三塚町田遺跡、跡部町田遺跡が発掘調査され古墳時代中期・後期、奈良時代、平安時代の集落の一部が確認されている。近年になって圃場整備済みの良好な水田地帯に開発がのびて、1994年度には三千束遺跡群寺添遺跡が調査され古墳時代後期～平安時代の竪穴住居址、等が調査されている。圃場整備による破壊とその際の発掘調査が極狭い範囲のため遺構が残存する結果となっている。当然他の地点もほとんど平らな地形の所で圃場整備が実施されているため同様な状態の可能性が高い。今回、依田貞太郎氏が貸店舗を建築することになり試掘調査を実施した。

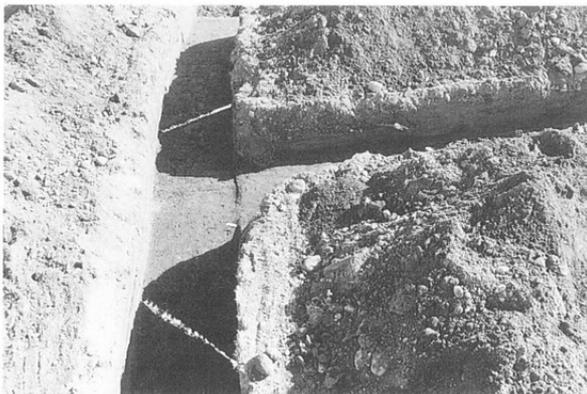
調査の結果 5本のトレンチから古墳から平安時代の竪穴住居址5軒が検出されたが、30cmの盛り土と遺構確認面までの表土が50cmのため基礎が届かないと判断し埋め戻した。



辻遺跡 2 位置図 (1 : 10,000)



辻遺跡 2 H 5号住居址 (仮称) 近景 (南西方から)



辻遺跡 2 H 4号住居址 (仮称) 近景 (西方から)



辻遺跡2 調査全体図 (1:750)



辻遺跡2 土層柱状図



辻遺跡2 土層 (南方から)

試掘調査

32 根々井居屋敷遺跡 1

所在地 佐久市大字根々井604-1
604-26

開発主体者 与志本林業(株)

開発事業名 建売り分譲地造成

調査期間 平成5年12月7・8・10・11・13
15・16・20日

面積 1,263m²

担当者 林 幸彦

立地と経過

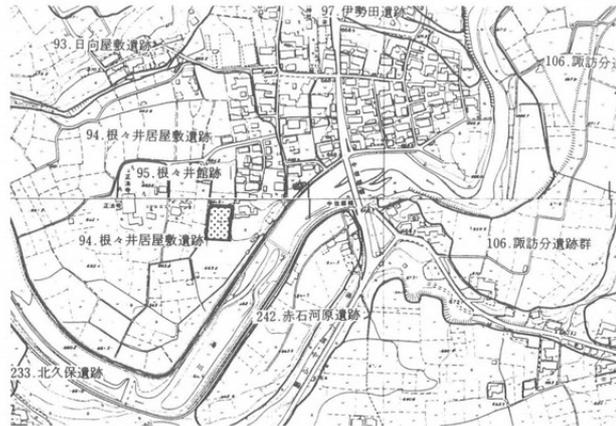
根々井居屋敷遺跡は、西流する湯川の右岸にあって標高664mを測る。この付近の湯川は、南へ大きく流路を移し蛇行している。本遺跡の西に隣接して1965年（昭和40年）に長野県史跡に指定された根々井館跡がある。

1993年度（平成5年度）に史跡現状変更許可申請が出され、試掘調査された地点があり、館跡に関する遺構は確認されなかったものの、多くの弥生時代後期の土器群が出土した低地が検出されている。今回、与志本林業株式会社が建売り住宅造成をすることになり、試掘調査を実施した。

調査の結果

対象地全面から遺物が出土しているが、遺構は平安時代の竪穴住居址7軒が検出された。対象地と市道を隔てた北の地番604-7から既出遺物として、古墳時代後期の土師器甕があり当該期の遺構の存在が考えられる。

保護協議の結果、表土30cmの上に50cm～100cmの盛り土がされることになり、埋め戻しをした。



根々井居屋敷遺跡1位置図（1：10,000）



根々井居屋敷遺跡1調査地点近景（南西方から）

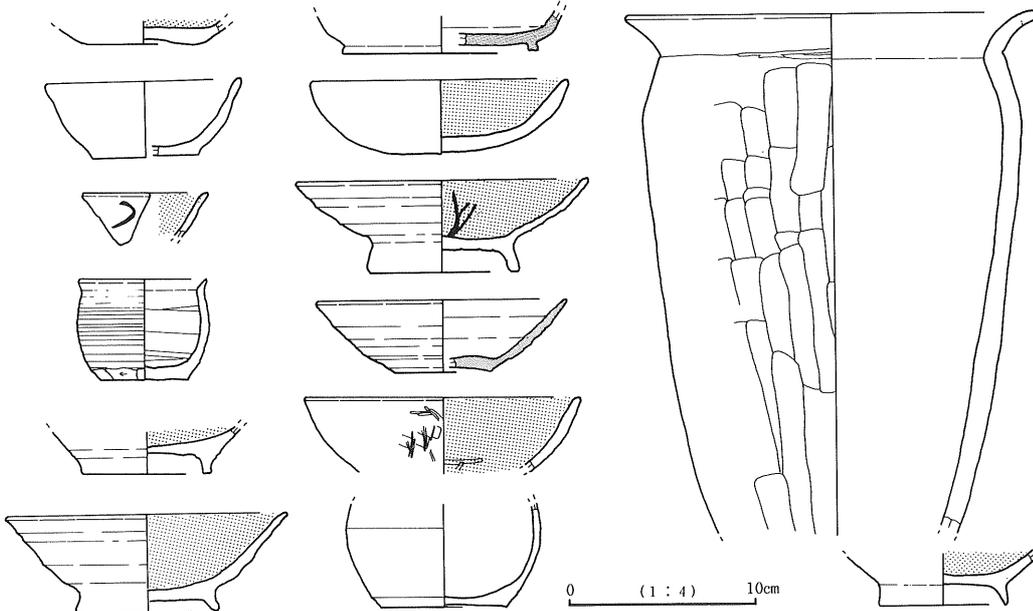


根々井居屋敷遺跡1調査地点近景（南方から）

32 根々井居屋敷遺跡 1



根々井居屋敷遺跡 1 調査全体図 (1 : 1,000)

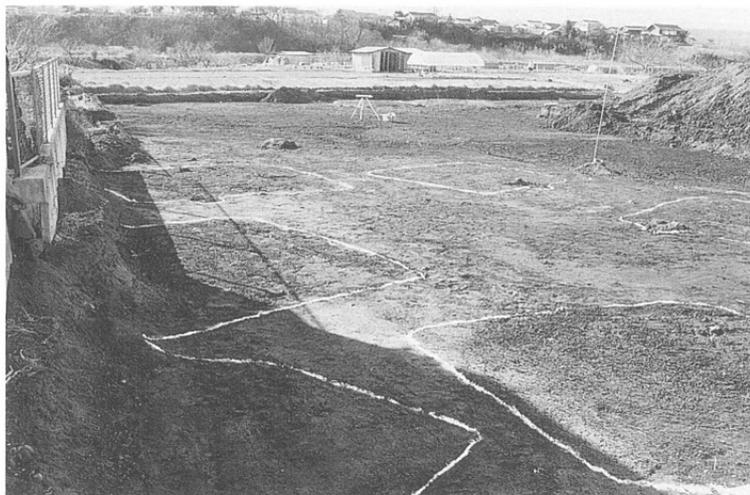


根々井居屋敷遺跡 1 出土遺物実測図 (1 : 4)

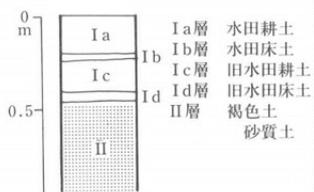
根々井居屋敷遺跡1
検出遺構（南西方から）



根々井居屋敷遺跡1
検出遺構（北方から）



根々井居屋敷遺跡1
検出遺構（西方から）

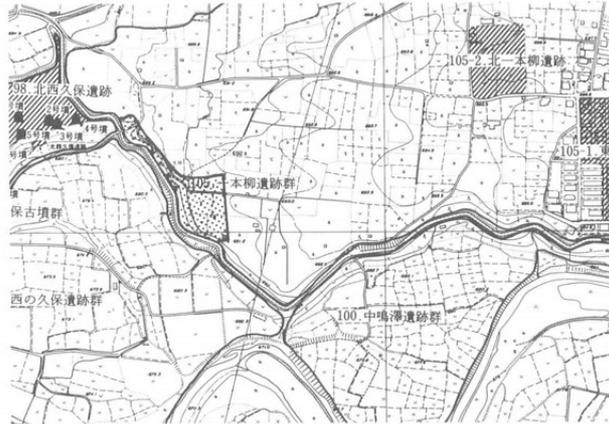


根々井居屋敷遺跡1土層柱状図

試掘調査

33 一本柳遺跡群 5

所在地 佐久市大字岩村田2337他
 開発主体者 学校法人 佐久学園
 開発事業名 テニスコート造成
 調査期間 平成5年12月21・22・24日
 面積 5,850㎡
 担当者 林 幸彦



一本柳遺跡群 5 位置図 (1 : 10,000)

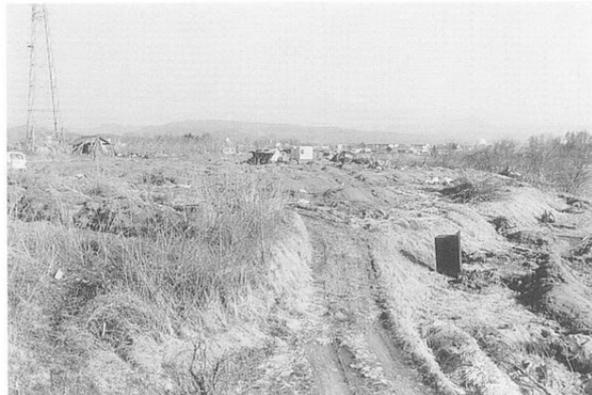
立地と経過

本調査地点は、一本柳遺跡群の西端で標高691mを測る。一本柳遺跡群内では、北一本柳遺跡、東一本柳遺跡、西一本柳遺跡Ⅰ、西一本柳遺跡Ⅱ、一本柳遺跡群4等が発掘調査・試掘調査されていて、東西1,000m南北500mの50万㎡に弥生時代中期・後期、古墳時代中期・後期、奈良時代、平安時代の集落の存在が知られている。

今回、学校法人佐久学園がテニスコートを造成することになり、試掘調査を実施した。

調査の結果

対象地の台地上平坦面には南北に10本東西に2本のトレンチを設定し、西側の一段したの緩斜面には、地形に沿ったトレンチを2本～3本南北に長く入れた。台地上からは隙間がないくらい密集して弥生時代中期・後期、古墳時代、奈良時代、平安時代の竪穴住居址群などが検出された。造成は30～50cm盛り土されて行われるため、全体図作成写真撮影をし、埋め戻しをした。



一本柳遺跡群 4 調査地点近景 (北西方から)



一本柳遺跡群 4 調査地点近景 (北東方から)



第1トレンチ (南方から)

第1トレンチ
(北方から)

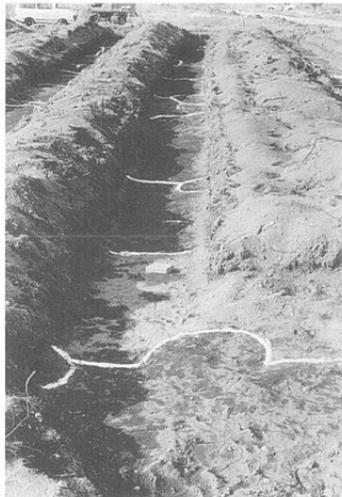


第1トレンチ (南東方から)

第1トレンチ
(南方から)



第2トレンチ(南東方から) 第2トレンチ(南東方から) 第2トレンチ(北方から)





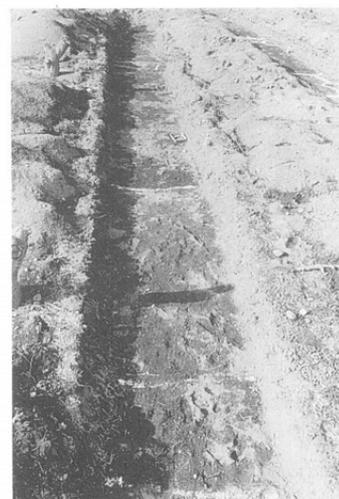
第1・2・3トレンチ (北方から)

第3トレンチ
(南方から)



第5・6・7・8・9トレンチ (南方から)

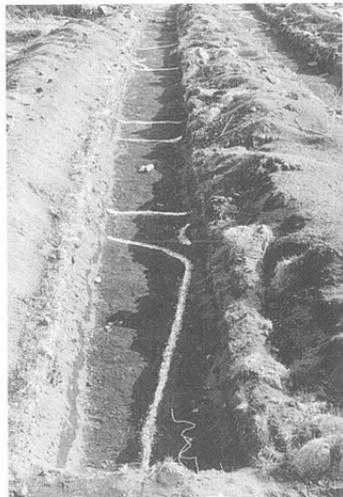
第4トレンチ
(南方から)



第4トレンチ (北方から)

第5トレンチ (北方から)

第5トレンチ (南方から)





第6トレンチ (北方から) 第6トレンチ (南方から) 第7トレンチ (北方から)

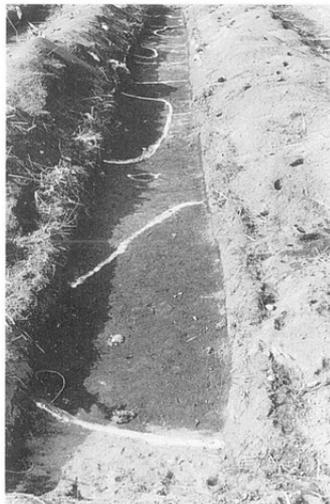


第7トレンチ (南方から)

第8トレンチ (北方から)



第8トレンチ (南方から) 第9トレンチ (北方から) 第9トレンチ (南方から)





第10トレンチ (北方から)



第7トレンチ検出遺構近景 (南方から)



第9・10トレンチ (南方から)



第10トレンチ (南方から)



第7・8・9トレンチ (北方から)

第13・14トレンチ
(南方から)

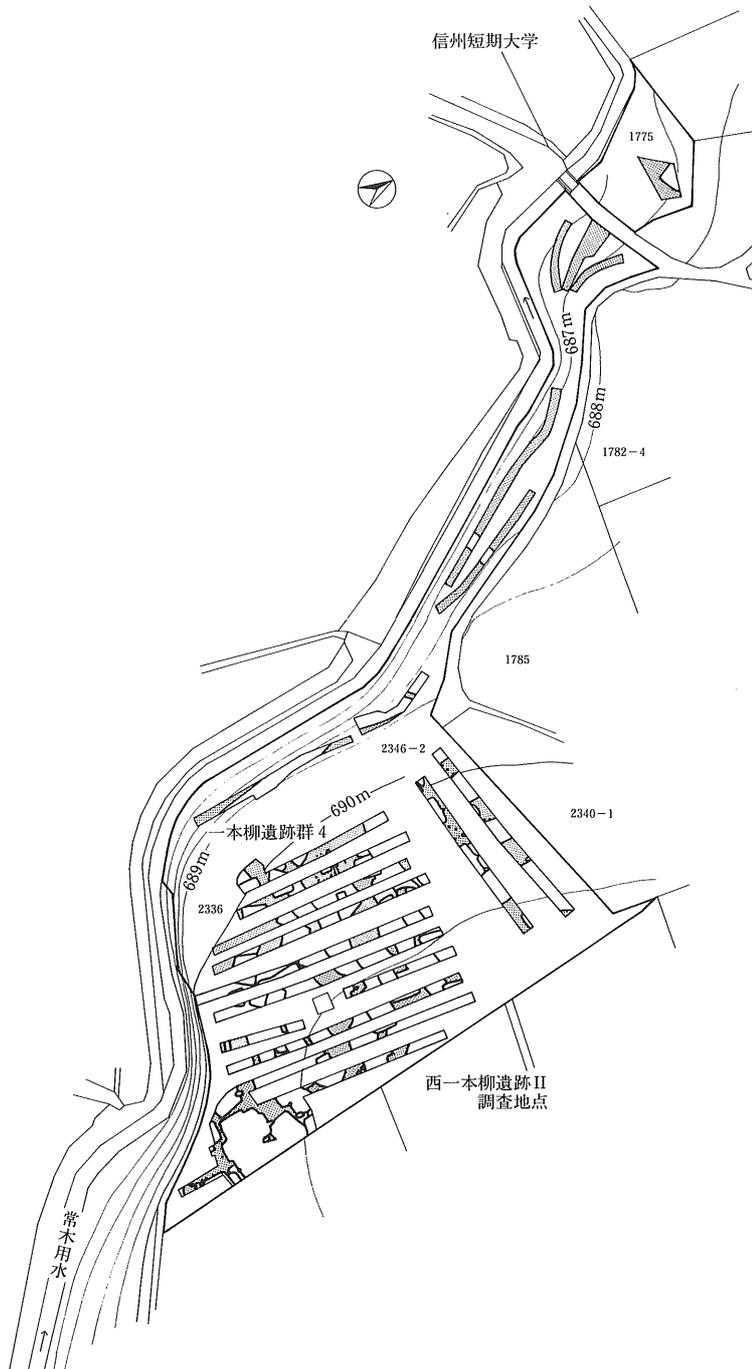


第17・18・19トレンチ近景
第16トレンチ遠景
(北方から)



第20トレンチ検出遺構
(東方から)





一本柳遺跡群 5 調査全体図 (1 : 1,500)

試掘調査

34 平賀城跡 2

所在地 佐久市大字平賀4449他
開発主体者 (有)山田屋
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成6年1月4日
面積 2,948㎡
担当者 林 幸彦



平賀城跡2位置図(1:10,000)

立地と経過

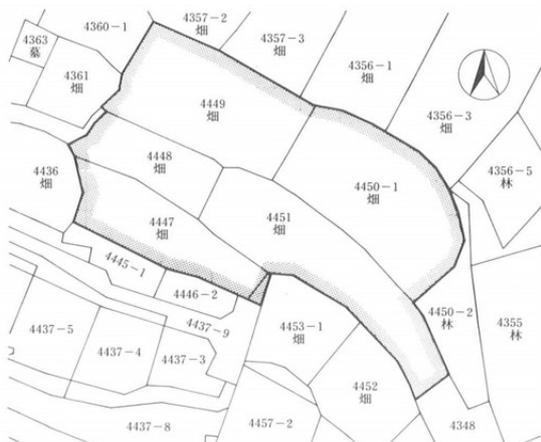
平賀城跡は佐久市大字平賀字城平・滝・北谷津にある山城で、1971(昭和46)年に長野県史跡に指定されている。本調査地点は、大林寺砦と呼ばれている。1992年(平成4年)度にこの大林寺砦の尾根上西側部分の大林寺墓地団地造成地とその進入路工事の際に立会い調査を実施したが、遺構は確認されていない。今回、大林寺砦の南斜面で有限会社山田屋が宅地造成を計画したので試掘調査を実施した。

調査の結果

対象地内東側の段を成している畑を、2筆全面表土除去したが、遺構遺物とも検出されなかった。



平賀城跡2調査地点近景(南方から)



平賀城跡2調査全体図(1:1,500)



平賀城跡2調査地点近景(北方から)

試掘調査

35 中金井遺跡群 2

所在地 佐久市小田井834,835-1
 開発主体者 佐々木 宗宏
 開発事業名 工場建築
 調査期間 平成6年2月14日
 面積 1,093.52㎡
 担当者 林 幸彦



中金井遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

中金井遺跡群は佐久市の北東端、御代田町境にあって、標高733m~778mを測る。遺跡群の東端には、湯川に臨む断崖上に金井城跡がある。本遺跡群からは平安時代の土器が主に表面採集されている。

今回、佐々木宗宏氏が工場を建築することになり試掘調査を実施した。

調査の結果

調査地点は、周囲に比べて一段低くなっており、金井城跡に関連する堀の存在が考えられたが、調査の結果自然地形の低地の可能性が高い。



中金井遺跡群 2 調査全体図 (1 : 1,000)



中金井遺跡群 2 調査地点近景 (北東方から)

試掘調査

36 長明塚遺跡 2

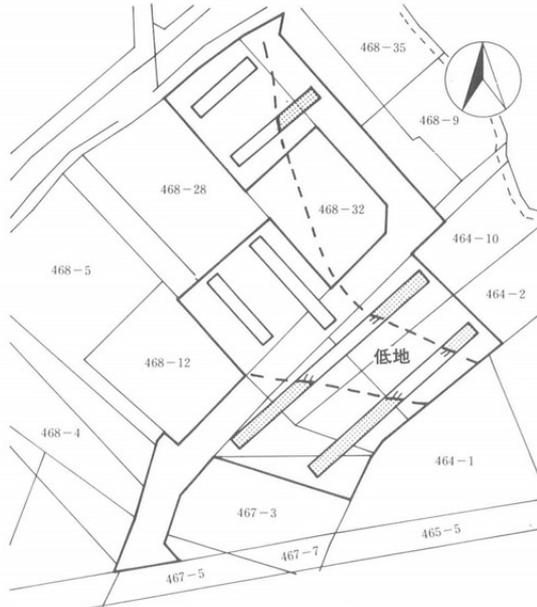
所在地 佐久市大字野沢468-31
開発主体者 青木屋建設(株)
開発事業名 宅地造成
調査期間 平成6年2月26日
面積 1,333.01㎡
担当者 羽毛田 卓也



長明塚遺跡 2 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

長明塚遺跡は千曲川本流より約1km西の沖積地の帯状微高地上にあり、野沢北高校の北側に位置する。標高は671mを測る。本遺跡に南に隣接して新発見の薊沢遺跡があって奈良時代から平安時代の竪穴住居址7軒等が検出されている。また、佐久市開発公社の宅地造成に伴って調査された本遺跡の南東に位置する長明塚遺跡1では、弥生時代後期の土器とともに溝状遺構1基が検出されている。今回、青木屋建設株式会社が宅地造成を計画したため試掘調査を実施した。



長明塚遺跡 2 調査全体図 (1 : 1,000)

調査の結果

6本のトレンチから遺構遺物は検出されなかった。対象地の中央に低地が観察された。



長明塚遺跡 2 トレンチ近景 (北方から)



長明塚遺跡 2 土層柱状図

試掘調査

37 中原遺跡群 4

所在地 佐久市大字三河田439-1
 開発主体者 (有)サンエイ開発
 開発事業名 建売り住宅建築
 調査期間 平成6年2月17日
 面積 1,135m²
 担当者 三石 宗一 富沢 一明
 上原 学



中原遺跡群4位置図(1:10,000)

立地と経過

中原遺跡群は、滑津川右岸の台地上に展開し、南西部には佐久地方で最大規模を誇る三河田大塚古墳が存在する。本遺跡群内では梨の木遺跡が発掘調査され、中世の遺構遺物が検出されている。また、1991(平成3)年度に中原遺跡群2・4の立会い調査、1992(平成4)年度に中原遺跡群1・3の試掘調査が行われている。

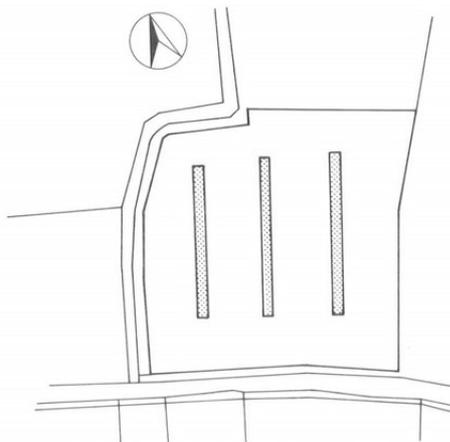
今回、有限会社サンエイ開発により宅地造成が計画されたため試掘調査を実施した。

調査の結果

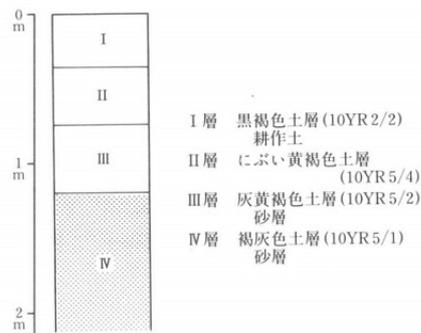
調査区内に3本のトレンチを設定し、遺構の確認を行ったが、遺構遺物とも検出されなかった。



中原遺跡群4トレンチ(南方から)



中原遺跡群4調査全体図(1:1,000)



中原遺跡群4土層柱状図

試掘調査

38 狐塚遺跡

所在地 佐久市大字塚原2151-2,
2142-2

開発主体者 池田茂秋

開発事業名 住宅建築（個人住宅）

調査期間 平成6年2月23日

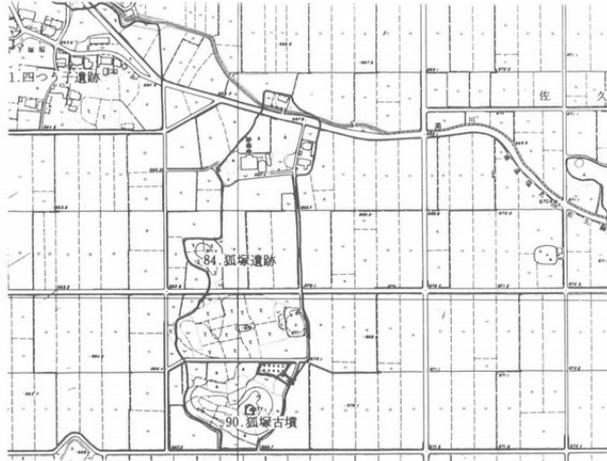
面積 447m²

担当者 三石 宗一

立地と経過

狐塚遺跡は佐久市の北西部、塚原地籍に所在し、標高670m付近を測る。また、本遺跡の南端部には狐塚古墳が存在する。

今回、池田茂秋氏により宅地造成計画がされたために事前に試掘調査を実施し、遺構の確認を行った。



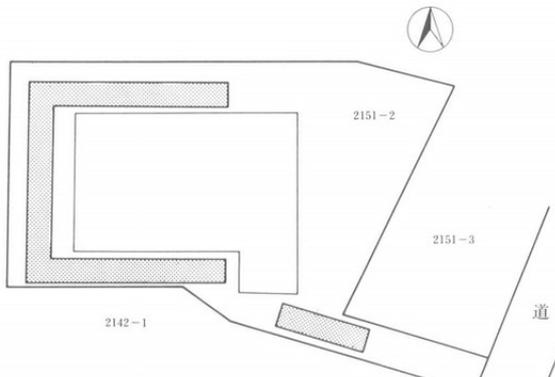
狐塚遺跡位置図（1：10,000）

調査の結果

建物の基礎部分の周囲にトレンチを設定し、遺構の検出を行った。表土下60～70cmより浅間火山灰土（P1）が確認されたが、遺構遺物ともに検出されなかった。



狐塚古墳近景（東方から）



狐塚遺跡調査全体図（1：500）



狐塚遺跡近景（南西方から）

試掘調査

39 平馬塚遺跡群 2

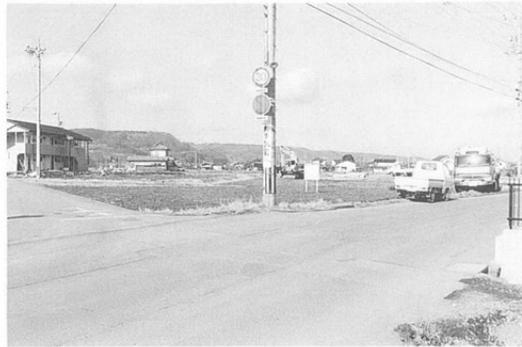
所在地 佐久市大字桜井163-1・4,
164-1・3・6
開発主体者 大蔵不動産(株)
開発事業名 建売り住宅造成
調査期間 平成6年3月15・16日
面積 2,974.63m²
担当者 林 幸彦



平馬塚遺跡群 2 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

平馬塚遺跡群は千曲川の左岸、片貝川の右岸に形成された帯状の微高地上にあって、659m～663mを測る。1984(昭和59)年度に同遺跡群内の石堂遺跡が発掘調査され、中世の住居址が1軒検出されている。今回、大蔵不動産株式会社が宅地造成を計画したので試掘調査した。



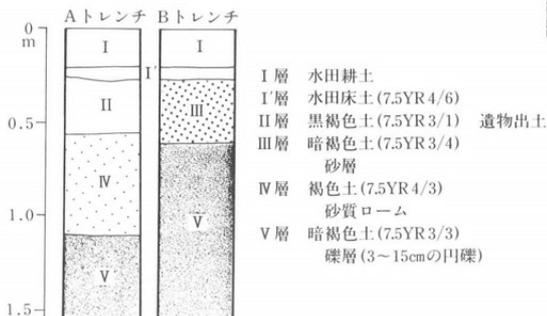
調査地点近景 (東方から)

調査の結果

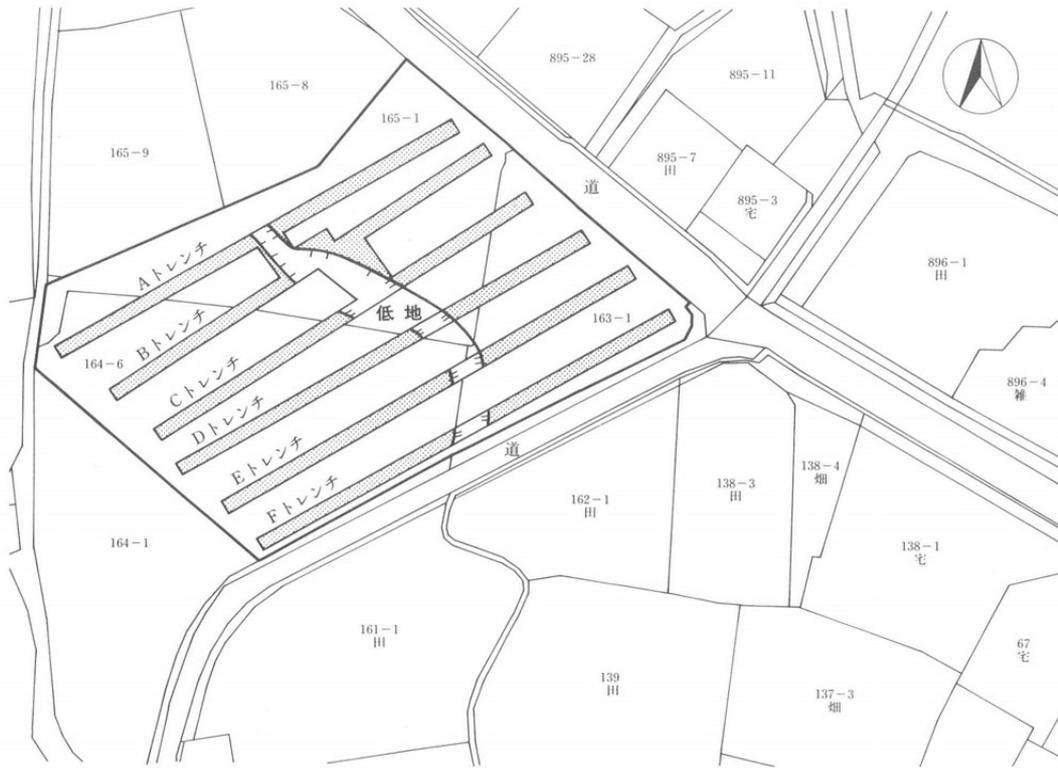
6本のトレンチを設定し精査したところ、中央に黒色の低地が確認された。この低地より弥生時代中期後半の壺片と同中期前半かと思われる土器片も出土した。遺構は検出されなかった。



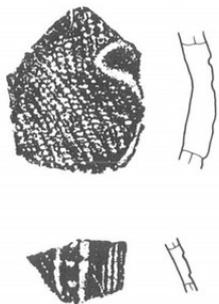
トレンチ近景 (東方から)



平馬塚遺跡群 2 土層柱状図



平馬塚遺跡2 調査全体図 (1 : 1,000)



0 (1 : 3) 5cm

平馬塚遺跡群2 Bトレンチ
出土の土器拓影図



トレンチ近景 (南西方から)

試掘調査

40 西赤座遺跡 7

所在地 佐久市大字岩村田3640他
 開発主体者 (学法) 佐久学園
 開発事業名 中学校建築
 調査期間 平成6年3月22日
 面積 4,391m²
 担当者 林 幸彦

立地と経過

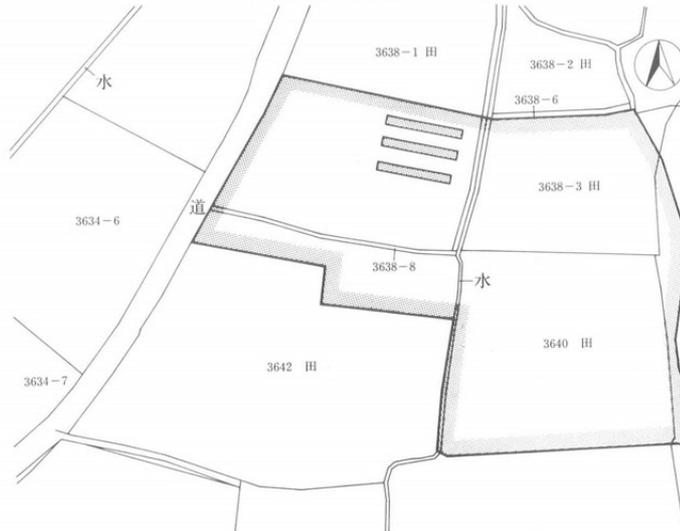
本遺跡は、南北に長い微高地上に所在し、標高は732~737m測る。今回、学校法人佐久学園が中学校を建築することになり試掘調査を実施した。

調査の結果

すでに、学生寮やプールが存在し攪乱され、客土がされていた。3本のトレンチからは、水田耕土の下から旧河川の堆積物である砂層が確認された。



西赤座遺跡 7 位置図 (1 : 10,000)



西赤座遺跡 7 調査全体図 (1 : 1,500)



西赤座遺跡 7 土層柱状図



西赤座遺跡 7 トレンチ (西方から)

立会い調査

41 大星尻遺跡 2

所在地 佐久市大字下平尾字大星
尻丸山

開発主体者 佐久市新幹線高速道課

開発事業名 市道改良工事

調査期間 平成5年4月21日

面積 1,500㎡

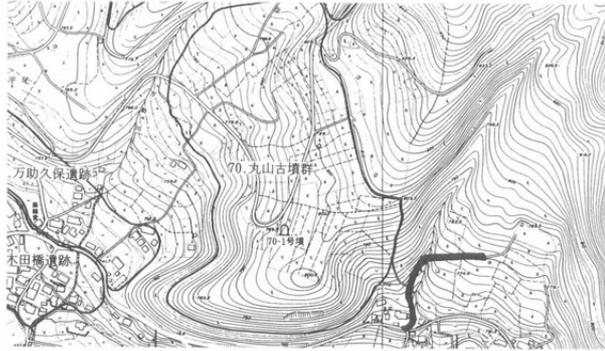
担当者 林 幸彦

立地と経過

本遺跡は上信越自動車道に関わる新発見の遺跡である。平尾富士南麓の低い尾根に挟まれる緩やかな谷中斜面にある。標高は770～780mを測る。上信越自動車道用地内では奈良時代の古墳1基、近世墳墓2基等が調査されている。今回、佐久市新幹線高速道課が市道改良工事をするので遺跡の範囲の確認と遺構の有無を確認するため立会い調査を実施した。

調査の結果

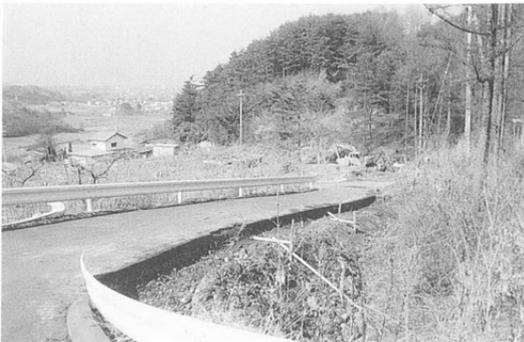
表土削平時に立ち会ったが、遺構遺物とも確認されなかった。



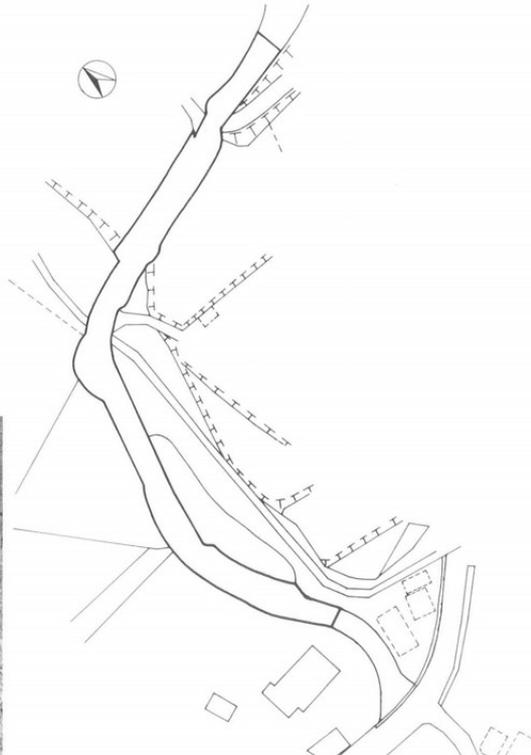
大星尻遺跡 2 位置図 (1 : 10,000)



大星尻遺跡 2 土層柱状図



大星尻遺跡 2 調査地点近景 (北方から)



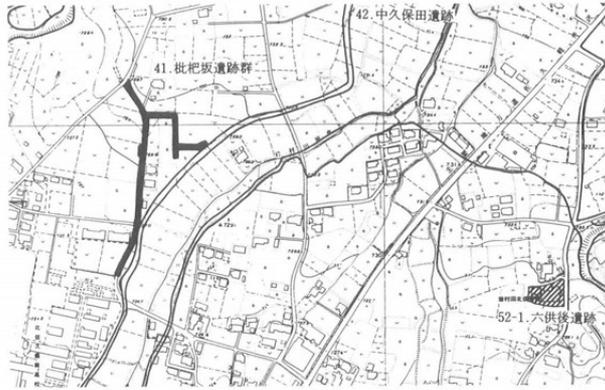
大星尻遺跡 2 調査全体図 (1 : 1,500)

42 枇杷坂遺跡群 1 43 枇杷坂遺跡群 2

立会い調査

42 枇杷坂遺跡群 1

所在地 佐久市大字岩村田288-1他
 開発主体者 佐久市耕地課
 開発事業名 農道工事
 調査期間 平成6年3月24日
 面積 479㎡
 担当者 高村 博文



枇杷坂遺跡群 1・2 位置図 (1:10,000)

立地と経過

枇杷坂遺跡群は標高705~740mを測り、田切りの台地上にある。1985(昭和60)年度に北佐久農業高校内の体育館建築に伴う発掘調査の結果、弥生時代後期の住居址2軒、古墳時代後期の住居址3軒が検出されている。今回、佐久市耕地課が農道工事、新幹線高速道課が市道改良工事をする事になり、立会い調査を実施した。

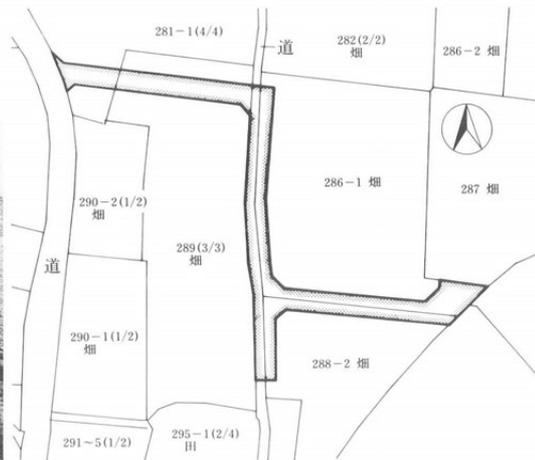
調査の結果

表土削平時に立ち会ったが、いずれの地点からも遺構遺物の検出はなかった。

立会い調査

43 枇杷坂遺跡群 2

所在地 佐久市大字岩村田268-2他
 開発主体者 佐久市新幹線高速道課
 開発事業名 市道改良工事
 調査期間 平成6年3月28日
 面積 1,000㎡
 担当者 林 幸彦



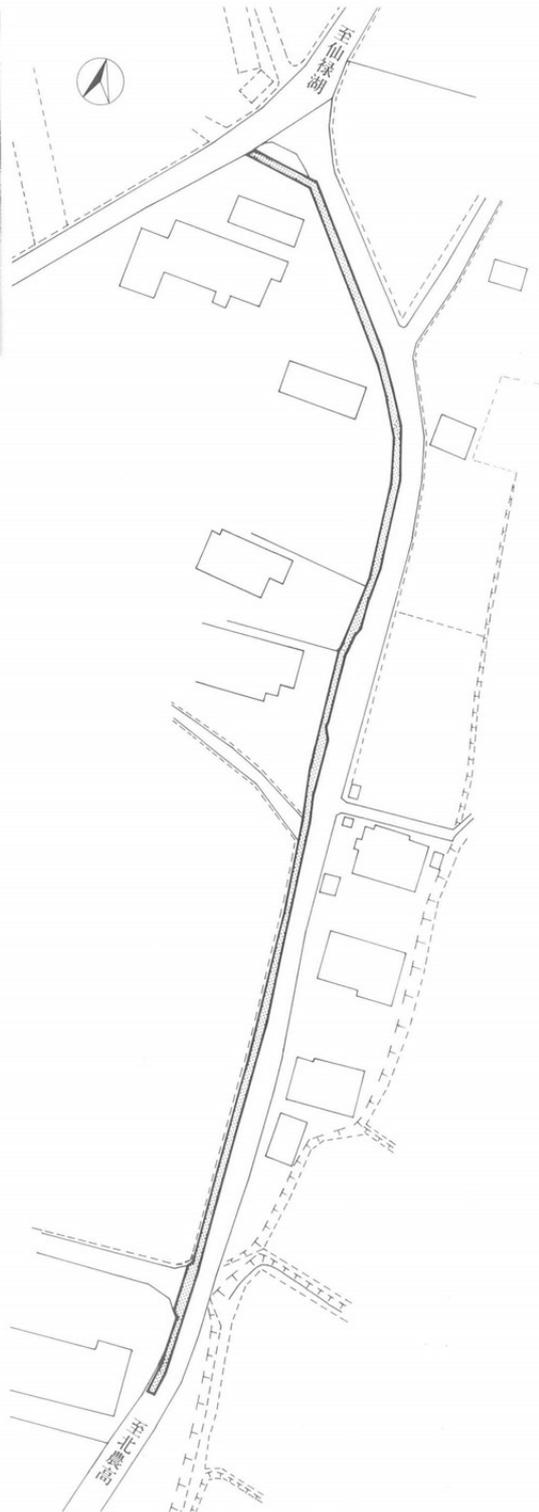
枇杷坂遺跡群 1 調査全体図 (1:1,500)



枇杷坂遺跡群 1 近景 (西方から)



枇杷坂遺跡群2 調査地点近景 (南方から)



枇杷坂遺跡群2 調査全体図 (5 : 12)



枇杷坂遺跡群2 土層柱状図

立会い調査

44 落合居屋敷遺跡 1

所在地 佐久市大字鳴瀬3572-1
 開発主体者 佐久建設事務所
 開発事業名 県単道路改良工事
 調査期間 平成5年10月8日
 面積 22.94㎡
 担当者 林 幸彦



落合居屋敷遺跡 1 位置図 (1 : 10,000)

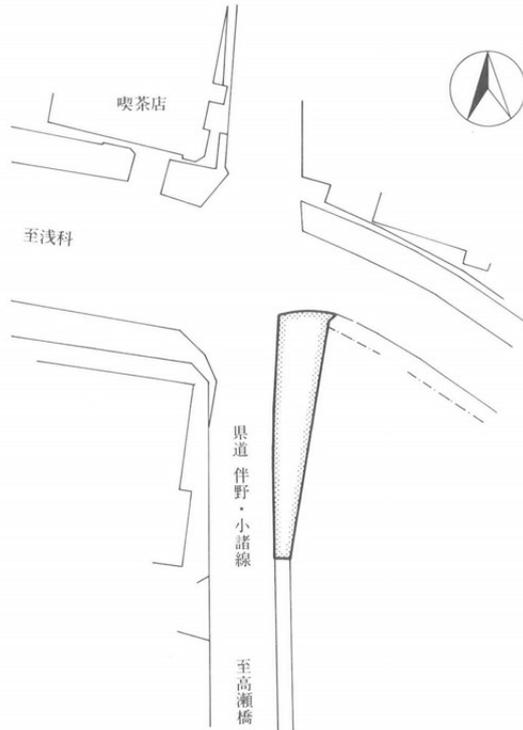
立地と経過

落合居屋敷遺跡は、湯川の右岸にあって標高640～650mを測る。湯川の最下流にあたり西流してまもなく千曲川に合流する。弥生時代～平安時代の遺物が表面採集されている。遺跡の北端に所在する時宗寺の裏手からは、板碑が出土している。

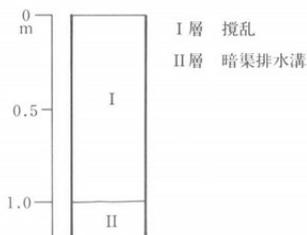
今回、佐久建設事務所が県道伴野小諸線の改良工事を計画したので立会い調査をした。

調査の結果

表土削平時に立ち会った。時期不明であるが暗渠施設の一部が確認された。他に遺構遺物は検出されなかった。



落合居屋敷遺跡 1 調査全体図 (1 : 500)



落合居屋敷遺跡 1 土層柱状図



落合居屋敷遺跡 1 調査地点近景 (南方から)

立会い調査

45 番屋前遺跡群 5

所在地 佐久市大字猿久保字番屋
前前原

開発主体者 佐久建設事務所

開発事業名 緊急地方道路整備事業

調査期間 平成5年7月15日

面積 3,192.81㎡

担当者 高村 博文



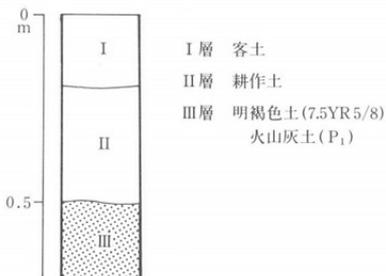
番屋前遺跡群 5 位置図 (1 : 10,000)

立地と経過

番屋前遺跡群は、湯川の左岸台地上にあり標高695m内外を測る。弥生時代～平安時代の遺物が表面採集されている。今回、佐久建設事務所による堰端線緊急地方道路整備事業関わり立会い調査を実施した。

調査の結果

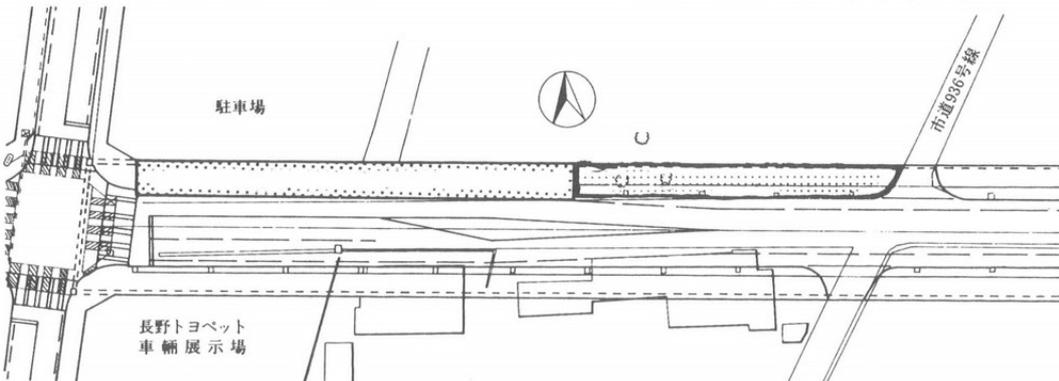
歩道部分に幅約2mのトレンチを掘り下げたが、遺構遺物は検出されなかった。



番屋前遺跡群 5 土層柱状図



番屋前遺跡群 5 調査地点近景 (西方から)



番屋前遺跡群 5 調査全体図 (1 : 1,000)